

《ロンドンからのたより(両親宛)》・1972c

～ナニー(nanny)見聞録～



1972年10月18日

お父さま&お母さまへ

ここしばらくたよりもせずにご免なさい。
あわや行き詰まりかと思われた事態によりやく先
の見通しが付きました。明日の午後、新しい家
庭に移る予定です。唯今のところはカソリック系
女子寮に宿泊してます。本来はドイツの女の子
のための宿泊施設なんだそうですが、最寄りの
駅がハムステッドで、ロンドン中央に近く地の利
がいいためどこへ出掛けるにもとても便利なの
です。今週の月曜の夕方、ヘンドンの Mr.&Mrs.F.
さん宅を出て、今日は日曜日ですから、ここ
には1週間ほど滞在していることになります。

ツタに覆われた煉瓦づくりの建物で、
静寂な空気の漂う、落ち着いた雰囲気ですが
気に入ったのですが。ここはドイツ系の修道女
たちが運営しているとか。彼女らはほんとうに
素晴らしい人たちです。清潔で飾らず、いつも
ニコニコと親切でほんとうに気持ちよくこの
1週間を過ごせました。私は‘職探し’で、ち
ょっと気持ちが落ち着かない状況だったけど、
ほんとうにこれぞと納得できる場所が見付
かるまではと、長期戦の構えで頑張るつもり
でいたのです。宿泊料はどこよりも安いし、
自炊ができるキッチンがあるのよ。いろん
な国籍の女の子たちと一緒に結構あれやこ
れやで愉しかったですし。

さて、明日からの‘仕事’はこれ以上は
とても望めないほどに私にぴったりだと思
います。そこのお宅は、東京でいうならば
成城といったふうな、ロンドンでも有数の
大緑地のハムステッド・ヒース近くの高
層住宅街にあります。実に

すばらしい豪華なお邸が整然と並ぶ閑静で
高級な地域です。3階建ての Mr.&Mrs.V.
さんの豪邸もその一つですが、夜暗くなっ
てからお訪ねしたものでお屋敷全体が今
ひとつ掴めてませんけれど、お庭はまる
で公園みたいなんだとか。まだ若いご夫
婦だからなので、室内の装飾・調度品な
どは贅を凝らしているというより、モダ
ーンでシックだと思いました。ご主人の
Mr.V.は会社経営しているお方で背の
高い堂々たる紳士です。奥さんの Mrs.
V.夫人は小柄で美人です。言葉遣いから
してやはり人間は‘高級’だと思います。
私に対する話し方も「～～していただけ
たら嬉しいのですが・・・」とか、ちゃん
と礼儀をわきまえた人の話し方をしま
す。イギリス階級社会ではアップパー
ミドルクラスなんだろうと思われます。
つまり富裕層ってわけ。そこそこ紳士・
淑女と呼べる人たちなのでしょう。彼ら
が今回募集していたのは2人のオペア
なのですが、1人は家事手伝いとして、
もう1人が子どものお世話するナニー
nannyとしてなんだとか。家事手
伝いの方は私では無理だとして、子ども
たちの世話っていうのはちょっと気持
ちが動きました。3歳児と1歳児の女
の子2人が居ます。まだ小さいし、何
から何まで世話をするとすると大変だ
と思ってちょっと思案したのですが、
育児経験は児童臨床以前に必要な可
欠と日頃考えていたし、大丈夫やれる
かどうかの不安よりも、むしろこの際
一つのチャンスと判断し、ナニー(育
児担当)としてお引き受けしたのです。
その晩邸内を Mrs.V.夫人にあちこ
ち案内されてちょっと見せてもらっただ
けなのですが、2階のフロアーに子ども
たちの寝室も各自のそれぞれあって、
それから日中遊ばせるプレイ・ルーム
もあり、子育てには十分に恵まれた環
境ではありそうです。もう寝床に入
った子供たちはちらっと覗いただけで
顔合わせはまだこれからなのですが、
大変だけど楽しくやれると思います。

やはり私の自由時間が少なくなって週2回の午後&1日の休みですから、なんとか語学学校へ行ける時間を工面しなければと思います。ここに至っては、例のケンブリッジ英検の資格試験を目指すということよりも、取り敢えずこうした経験が出来ることの方に魅力を覚えたのです。それから今ひとつの理由は、実は12月までにタビストックのトレーニングセンターに於いて研修生 (trainee) として入学許可されるかどうかの面接が予定されてるのだけど、将来此の国で児童臨床に携わることを想定すれば恐らくここでのナニーの履歴がきっとプラスの印象になると思うの。ただ語学研修を受けてるというだけでは私自身をアピールする(つまりあちらの関心を惹き付ける)力は乏しいわけ。だから、ちょっと戦略的でもあるの。今までの経験上、あまり興味のないことは絶対長続きしないのですし、何やらそれなりに覚悟が決まったわけで、急に子どもが2人できたつもりで頑張れるかなと思ってます。

ただちょっと気掛かりなのは、ざっとした印象ではこれ迄のオペアとしての身分とも待遇ともかなり違うの。ホストファミリーに家族の一員として迎えられるという感覚ではもはやなく、明らかに就労であり雇用契約になるわけ。あちらが雇用主でこちらは‘住み込みの使用人’ってわけ。ですから‘お給料’も週9ポンドです。これまでの週4ポンドのお小遣いに比べれば破格なわけです。いい加減ホストファミリーとの‘家族ごっこ’には飽き飽きしてきていたし。こういう割り切り方で彼らと付き合うのはむしろ今の私には好都合に思えたの。お邸の3階のフロアーがすべて私ともう一人のオペアの女の子との2人だけの居住空間になりますし、清潔な暮らしが出来ることを思えば、これでまずまず結構だと思わなくちゃならないと思ってます。が、いくらか背伸びしてするような、一抹の不安がなくもないのです。

この1週間ほどあちこちとエージェンシーを駆け回って、斡旋されたオファー(申し出)を次々に断って、ほんと一時はどうなることやらと気を揉んだけど。決していい加減なところで妥協せずにどうにか最適なところを見つけて安堵してます。よくぞまあと、この運の良さには我ながら呆れますけどね。心の洗練されていない人々と同じ屋根の下で‘家族ごっこ’して暮らすのはどうしたって耐えられませんか、あまりきつい労働は私の体が利かないのですし。いろんな意味で妥協点を探すというか、現実的に此の地の人たちと折衝してゆく能力も問われているわけで、なんとかあっちもこっちもと無理のない折り合いの付け方を徐々に心得つつあるように思われます。それが結構難儀なことなわけですよ。

それに今回やはりこれ迄と違うのは、身元保証人が(言い換えれば、推薦状ってわけ！)要るということでしたわけ。有り難いことに今回以前からの知人Dr. カーベルにお願いできたの。それで難なくパスってことに。それからね、彼女が2日前の晩、私をバレエの観劇に招待してくだっただの。《ロイヤル・オペラハウス》なのよ！なんとも豪華絢爛たる建物で圧倒されました。さすが観客層もいかにも高級感が漂っていて、休憩時間などにはロビーでコーヒークップを片手に、ドレスを素敵に着こなしたご婦人やりゅうとした身なりの紳士やら、毅然とした人々の談笑する姿を傍らで眺めながら、イギリス社会で高級とはこういうことか成程と感心したり、なかなか愉しかったのです。私もいつか将来気後れせずに彼らに溶け込めるのかどうかが課題です。何事も急がず焦らずですけれども…。

今晚の予定は、ここの女子寮に滞在してる他の女の子たちと一緒にロンドン中央へ繰り出し、クラシック・コンサートを聴きに《ロイヤル・アルバート・ホール》まで皆で出掛けるのよ。

ここの居間にはレコードプレーヤーの設備があり、しばらくほんとにくつろいでクラシック音楽をむさぼり聴いてたのでした。十分に休養を取りましたから、明日から元気に活動開始！と思っています。万事とつてもうまく行っていると思うの。ここの女子寮の修道女の皆さん方の雰囲気は大いに感化されたみたい。これから私も潔くスカッとした気分で明るく生きてゆかなきゃって思っているところなのです。じゃあ又、いずれ。

千鶴子より

(新住所: ※※The Bishop Ave. London N2
England)



1972年10月21日

お父さま&お母さまへ

ここ Mr.&Mrs.V.家での生活は3日目を迎えているのですが。子どもたちとの日々の暮らしがいかなる状況なのかぼちぼち把握し始めてます。いろいろと気掛かりなことも眼に付きだしてまして、ちょっと考え込むことがあります。

2人の子どもは1歳と3歳で。3歳がデボラ、1歳がジャックリンという名前です。2人とも女の子で、栗色の明るい髪の毛と褐色の瞳で姿・格好もまことに愛らしいの。性格は良く、ニコニコと愛嬌を振りまいて笑うのがとても可愛い。ただ何かしら奇妙というか、変なのです。判明した事実、これ迄ナニー(世話係り)のオペアの女の子の入れ替わりが激しくて、それも殆ど英語がしゃべれなかったとのこと！そのせいなのか3歳のデボラの言葉の発達の遅れが著しく、単語の発音すらもおぼつかないぐらいだから、1歳レベルとも言えないぐらいなのが不可解なのです。契約時に Mrs.V.夫人から何ら説明を伺

ってませんでしたし、私としてはどう対処したらいいか、内心動揺しています。でも躰けが厳しいこともあって、或る面でとても賢いのがよく解るし、だからデボラの言葉の遅れは養育者が頻繁に変わったという環境のせいだと思うのです。現在3歳だけど幼稚園に通ってますし、それに両親もよく可愛がっているわけで、英語を聞く・話す機会は普段の日常生活にたくさんあった筈なのに、何故なのかと訝しく思ってます。私としては自分が生粋の英国育ちではないというハンディがために、此の国の‘児童文化’に疎いということが悔やまれるわけです。絵本、歌、ゲームやら、幼少期の子どもがどのような糧を与えられて育ってきたのか実践的に自分には掴めていないことがもどかしくもあり、頻りと悩むところです。それにしても Mr.&Mrs.V.夫妻がまるで焦慮に駆られている様子がないのがむしろ腑に落ちません。

1歳のジャックリンの世話は面白いです。赤ん坊なんて世話したことないものですから。ひとまず今のところ Mrs.V.夫人のやり方を一つずつ模倣してるのだけど。とても清潔に育てているのってのはよく解かります。すごく為になります。清潔にして、美味しいものを食べさせて、外の空気をよく吸わせて、確かに彼女はまったく健康に育っています。

ここのご夫婦は若いけど、良識の備わった人々のように窺われます。決して人をあからさまに悪く言ったり、命令口調で話すことはないです。どちらかといえば、こちらがやはり使用人としての分限をわきまえて直接的な触れ合いを遠慮してしまうわけだけど。あちらも決してこちらの個人的な領域へは踏み込んで来ません。それを物足りないというのでもありません。なんと云うか全般に見苦しい・聞き苦しいことは極力避けるというか、スノッブ(上流きどり)ってことかも

しれないけど、やっぱり苦勞を知らずに優雅に育てられた富裕層なのだと思います。食事は同じものを食べますが、別々の部屋です。きちっと区別して、その代わりこちら使用人側の自由を尊重してくれたり、食べ物の好き嫌いを気遣ってくれたり、今のところそこそこの日常的に不満も覚えず居心地よく過ごしております。

家事手伝いのオペアはオーストリアから来たアンナという18歳の女の子です。金髪でちょっと太め、がっちりとした体格で、農家出身でいかにも働き者って感じなのです。殆ど英語がしゃべれず、ドイツ語でちゃんぽんにしゃべるので、彼女の話聞いてやるのがもう一苦勞なの。ご主人の Mr.V.が、どうやら元々ドイツ人なのかしらと思う。ドイツ語をぺらぺらしゃべるので、奥さんの Mrs.V.夫人の英語をアンナにいちいち通訳してあげてます。それでまあなんとか双方の意思疎通を図るような具合なの。家事手伝い程度だからということであっても、何かこの事態は私の眼には釈然とはしません。言葉が通じないということは、お互い苦痛なものだということが解るのです。外国語って、音への感受性という点からいうと、心地いい音として聞きたいと求める気持ちよりも、雑音として苦痛だから聞きたくないと排斥する気持ちが募るのね。子どもには決して良くないと思いました。デボラのこれまでの凡その環境が察せられるというものです。

食べ物とは高級な食材で、清潔で申し分ないのです。以前のホストファミリーでのゴタゴタと汚かった、いろんなことを思うと、ほんとうに私はよくぞ決心して職を変ったと自分を誉めてやりたいのです。美味しい食事と毎晩の入浴と、子どもたちのお相手の暮らしで、とにかくにも外側だけでも此の国で「自分を高める」ことの実現されてゆくことが嬉しいわけです。奥さんは、

私に子どもに対して‘権威’を持たせてくれるのです。全然トラブルはありません。家事は私には向かないので、今の子どもだけのお世話係りにまったく満足しています。

今朝、ジャックリンを乳母車に乗せて、デボラは私の傍らに歩かせ、一緒に散歩に出掛けました。ここの辺りの住宅街の素晴らしさは実に申し分ないです。街路樹が整然と植え込まれてあり、North Wood という鬱蒼とした木陰の小径へと続いて行きます。迷子にならないように、私たちは適当なところで引き返さなくてはなりません。ここから程近いハムステッドヒースの帰途などわざわざ遠回りして物珍しげにこの界隈を覗きに訪れる観光客がたまにいるけど、お隣近所の邸宅同士ってのは距離がありすぎてハロー！って声を掛け合うどころじゃありません。殆ど人の気配すら感じられないのです。ヒヤッとした身をすくませるような、‘富裕層のゲットー’というのも憚られるけど、独特の排他性、それと奇妙だけど同時に独特の閉塞感が漂っています。眼には見えない高い障壁があって、だから訪れた部外者は場違いな処に踏み込んだみたいで、そそくさと立ち去ってゆく。そうした物音一つしない静寂さをつき破るかのように、デボラが路上の枯葉が積もっている中へわざわざ靴先を踏み入れてキャアキャア笑いながら枯葉を撒き散らしたりして、そんな子供の無邪気な笑い声にむしろ私の中の異邦人的閉塞感が一瞬慰められた感じがしたわけなの。楽しかったです！もうすっかり秋なのですね。

子どもの世話は結構しんどくて、特に入浴させた後なんてぐったりだけど、まあまあ飽きずに日々が過ぎてゆきそうです。可笑しな事に、支給されるお仕着せの白衣に身を包みながら、

我ながら‘使用人’という身分が自分でも非現実
に感じられるのですが、それも案外清潔感があり、抵抗ありません。どちらかというと、かつて
学生時代に『名古屋市立大学病院』の精神
科病棟で実習してた当時の白衣姿が想起こ
され、むしろプロ意識を呼び戻された気分です。

フサフサしたぬいぐるみみたいな犬が
一匹いるんだけど。スパニエル犬の種類とかでキ
ャバリアとか呼ばれているらしい。白地に赤褐色
の斑が入ってて、眼は黒めがちで大きい。耳
が大きく垂れていて、毛並みが長くてとても柔ら
か。まるっきりぬいぐるみみたいで、邸内をノソ
ノソ歩いていてもとても犬には思えません。私は子
供たちのお相手に忙しく、あまりその‘ノソノソ’と
は遊んであげられないのが残念なの！

それから、毎日かなり年輩で恰幅の
いい、実直そうな庭師(ガーデナー)が通ってくる。
庭園を維持してるの。その‘ノソノソ’の犬に餌を
やったり、いろいろ細々とお邸の外の雑事をもし
たり、黙々と立ち働いています。ジョージという名
前で、アイルランド系とか。寡黙ながらもいい方
なの。時折私のお喋り相手にもなってくれます。
彼の場合使用人の身分でも雇い主とは距離が
ある立場で、なにしろ庭師という専門スキルがあ
るから。だから長年に亘って自由な立場で V.家
邸内に起こる事象のあれこれを眺めているわけ。
前任のナニーたちの話を彼からこっそり聞きだす
ことが出来たという次第なの。その入れ替わりは
実に目まぐるしかったみたい。内心ギグツとした。
一人ひとりの何ゆえの事情があつての離職なの
か、解雇ではなく、自発的動機だとしたら、それ
は何だろう？ ‘明日は我が身’とは必ずしも言え
ないにしろ、ひどく気掛かりに思えたわけ。

取り敢えず今のところ‘蜜月’というの

でもないけど、ここでの生活も順調で、いずれ
近々子どもたちの誕生日パーティとか、大人の
晩餐会やら、いろいろと計画が盛りだくさんで、
忙しい日々になると思います。落ち着いていま
すのでご安心ください。安定した気持ちで、実に
いろんなことを学んでいます。では又ね。

千鶴子より



1972年10月23日

お父さま&お母さまへ

ここでの生活が、やっと一週間終わっ
たのですが、随分長く思えました。子どもの世話
も慣れてきましたし、なにしろ気立てのいい子ど
もたちなので、扱いやすいし、奥さんが厳しく育
てるように躾けているので、叱るときもうまくいく
ので、イライラすることが全然なく、私は落ち着いて
うまくやっています。

3階には、私の個室、アンナの個室、そ
れに居間(読書室兼客間)、トイレと浴室があり
ます。まったくこの V.家族とは別空間になっ
ているので、休日には夜の帰宅時間は自由です
し、仕事を終えて部屋でくつろぐときも、テレビを
掛けたり(各部屋にあるの)、ラジオを鳴らしたり、
お風呂に入って歌ったり、ごく気儘に過ごせるの
が嬉しいです。部屋の窓からの外の眺めが素晴
らしいです。庭は広々と、確かに小さな公園の
ようなの。隣の邸宅の庭も、テラスの向こうに遥
かに芝生が続いていて素敵です。この庭は、
小さな子どもが居るのが解るみたい、それも
庭師のジョージの心配りなのか、花壇がたくさん
あって、花々がそりゃあ豪華なのです。小さな家
ぐらいもある大きな柳の樹がいつもユサユサと風
に揺れてます。小さな‘あずまや’が庭内のあち
こちにあたり、実に美事な景観なのです。

明日はジャックリンの1歳の誕生日なのです。パーティが予定されており、10人ぐらいの子どもと奥さま方が訪ねてくるので、私たちは今その準備に忙しい最中なのです。テーブルの飾りつけも面白いの。お皿も食べ物も、何もかもが子ども向きに飾り立ててあって、子どものパーティの演出もなかなか趣向を凝らすものだと感心してる。そりゃ楽しいと思うの。

昨日の日曜、V.家は一家お揃いでお出掛け。アンナはお休みで不在でしたが、私は彼らにお伴したの。ドライブの辿り着いた先は、かつてはお城で今はホテルに改修された由緒あるところとか。そこのレストランに予約を入れてあってアフタヌーン・ティーの豪華版でした。紅茶にサンドウィッチにケーキ類があれこれ。テラスで庭を眺めながら午後のお茶の時間を愉しんだのです。その庭の豪華なこと！まるで『不思議な国のアリス』の絵本から飛び出したみたいなの、生垣で作られた迷路があったりで、みごとに幻想的なものでした。傑作なのは、まるで日本の石灯籠のように樹木が植え込まれてあって、ツタが綺麗に絡めてあり、その刈り込まれている形態が日本の盆栽とも違う、いかにも幾何学的なものには珍しくて目を瞠りました。それから、庭園の一角にはなんと子ども向けの‘ミニ動物園’もあって、放し飼いにしているロバやらアヒルやらがいっぱいの！デボラがそれらを追い掛けてはキャアキャア歓声をあげるやらで、大人も子どもも大喜びの一日でした。

なんだか英国富裕層の暮らしをちょっとばかり摘まみ喰いしてるかなって感じだけど・・・まずまず気持ちよく暮らしていますので、ご安心ください。では又ね。 千鶴子より



1972年11月7日

お父さま&お母さまへ

毎日なにかと忙しく追われています。仕事は子どもたちの世話だけですが、清潔と安全に留意しながら、食べさせること・着換えを手伝ってやること、それから部屋を綺麗に片付けてやることなどで、一日があっという間に終わります。1歳のジャッキーに食べさせるのも一時間ぐらいあっという間に掛かって、なかなか食べさせるというのも楽なことじゃありません。でも私は座ってられるだけまだましです。上の子のデボラはあまり食べたがらないので、叱ったり誉めたりと母親のほうで躍起になります。でも、お腹がぽこんと出ているぐらいの子だから、十分な栄養はとれているはずだし、あまり食べろ食べろといじめるのは厭なので、私は子どもの様子を見ながら、皿に残したものを適宜に捨てています。デボラが、言葉をうまくしゃべれないので、しかし近頃は我を主張し始めてもきたこともあり、時折ちょっと扱いが困ります。でも根はいい子なので、こちらがあまりワァーワァー口うるさく厳格である必要もないと思うのです。しかしながら、そもそも規律が緩いというのは此の国のナニーとしては失格なのかも知れないと内心悩みます。

英国での子どもの躾けというのは、一般的に日本と違ってすごく厳しいです。英国の子どもはその生い立ちの中で万事自分の思うとおりにならないということをあまりにも残酷に思い知らされているという感じがします。それも上流階級に限らずだけど。でもやはり殊更に上流階級の子どもたちは何よりもまず『規律に従うこと』を幼少時からナースなどの使用人から自覚的に徹底的に仕込まれるみたいなの。子どもの喜怒哀楽どころか生理的欲求すらも無視されがちで、

機械仕掛け人形じゃあるまいし、なんで「愉しむ」ことがあってはいけないのかと私などは反発を覚えます。規律一辺倒というのがとても私の感性では耐えられません。まあしかしながら、取り敢えずは今のところ、ここの V.家での奥さんのやり方をその通りにフォローする形で子どもたちに接してあげてます。躰けの一貫性の欠如という点からして、子どもの面倒をみる人が頻繁に変わる環境はやはり問題なわけで、私としてもこれ迄の流れを即座に変えるわけにもゆかず、まずここ当分の間は Mrs.V.夫人のお手並み拝見といったところ。彼女はどうかやら自分が管轄してる限り大丈夫と樂觀してるらしい。確かに彼女の自信の裏付けには育児のマニュアル本の臭いがする。勿論それはスノッブ(上流きどり)の臭いでもあるんだけど・・。

ところで、ついこの前のこと、庭で盛大な花火大会が催されました。ご主人の Mr.V.が万事企画・演出された模様です。勿論庭師のジョージも裏方として大いに活躍してのことでしょうが・・。

此の地では、11月5日は「ガイ・フォークス・ディ」といって、焚き火をしたり花火をあげたりする子どもの祭りの日なのです。家族やら地域社会でもそれに因んでの催し物がいろいろあり楽しい一日なのです。

でも、私邸でこれほどの規模の花火の打ち上げを見るとはまったくもって驚嘆しました。篝火の焚かれた庭を一望にした広い居間はご招待された60人ぐらいの来客でごった返してましたが、人々はワインなどの飲み物を片手にくつろいで次々に打ち上げられる花火に興じてました。来客の殆どは Mr.&Mrs.V.夫妻のユダヤ系の裕福なご親族たちと覗われましたが、Mr.V.の財力を誇示する絶好の機会といった印象でも

あり、確かに惜しげもない大散財ではありました。そもそもこの祭りとは、イギリスの昔々国会議事堂を爆破しようと企てたガイ・フォークスという国家反乱者に因んでのことで、つまりは年に一度の無礼講ってわけだから、立て続けにドカンドカンなのでもう爆発音やら辺り一面の白煙に気も動転せんばかりで、日本では夏の風物詩でもある花火のように、夜風に涼みながらの風情をのんびりと愉しむもなにもないってところで。日本のドン！・・・パッ！っていう悠長な花火を想い出して、むしろそっちが懐かしかったです。

次の日、日曜はアンナも私も午後フリーで、メイというベビーシッターが雇われ、子どもたちは彼女に託されたのです。Mr.&Mrs.V.ご夫妻は昨晚お泊りになったお客さんと外出しました。パーティやらなにやらと、とにかく此の家ではいろんな行事が次々にあります。それが彼らの社交上の身分やら立場にふさわしい役割を果たしていることになるのでしょうか。その都度アンナも私もおもてなしの手伝いに駆り出されることがあり、私はエネルギーをなるべく消耗させないように、勉強のための余力を残しておこうと必死です。他人の家に居るということは神経の休まらないものですが、一応自分のための部屋やトイレやバスルームがあり、休みの日は完全に休養できますからなんとか体の調子を回復させられます。お母さまが『整肢学園』で肢体不自由児たちのお世話をしていることを思えば、しんどいって弱音を吐くなんて出来るわけないのですが。なかなか大変なものです。時折こんな自分をバカみたいと思うけど、今のことが将来絶対にプラスになると信じて、眼をつぶって、でもまあ適当にいろいろと学ぶこともあったりですから、日々頑張っているわけです。

この前ちょっとショックな出来事に遭遇したのよ。ピクトリア駅の周辺の街頭でちょっと薄汚い格好の子どもたちが道行く人にお金をねだっているのを眼にしたわけ。そこで私がこれから訪問するオペアの友達に今駅に着いたからと連絡を入れようと、公衆電話の受話器を耳に当てている最中に、そのグループの子どもと思われる子が近寄ってきて今何時かと私に尋ねるの。ああだこうだと話してる隙に他の子が横合いから私の財布を掏り盗ったのです。まんまと嵌められたわけ！ 迎えにきてくれた友だちのクミコさんと一緒に警ら中の警察官に訴え、あちこち捜しまわったけどもう‘後の祭り’で、当然それらの悪ガキたちの姿は獲物ごととくに消え失せていたわけ！

椿の絵柄の皮細工の財布で、とても気に入っていたもので、盗まれてひどく腹が立って仕方なかったけど、あの悪ガキたちの手に渡ったあの日本製の高価な財布が、中身のお金はともかく、どんなに珍しく嬉しいものだったかと思えば、日本からのお土産物として差し上げたと思えばいいのかなって思い直したってわけ。階級社会の歪みというか皺寄せというか、貧困層を抱える此の国のモラルの低下には、時折ここの国の人たちはまったく恥知らずだと憤然とすることがあります。手紙でお母さまの話を聞くとまったく平和で、ああ日本はいいなって頻りに思うのです。

今、目の前のジャックリンが、私が食べさせることに不熱心だって私にブーブー怒ります。私がこの便りを書き綴りながら、スプーンで食べさせてやってるものだから、まあ彼女が怒るのも当然よね！ だってさ、彼女食べるのが遅くてさ。こちらの間が持たないんだもの。ジリジリしながらヒス起こすよりはいいかなってとこだけど。でも私の気持ちがつい‘心ここにあらず’になってしまうのが確かによくないわね。ジャックリンにご免ねと

謝りました！ デボラが友だちの誕生日パーティに招かれて奥さんと一緒に出掛けているの。アンナは今日は語学学校なのです。この広い邸内にジャックリンと私と2人だけでまったく気楽なのです。1歳ですが、彼女、まだ這い這いするだけです。子どもってあまり上品に丁寧に庇護されて育てられると、歩行も会話力も遅くなるものなのかしらって頭をひねるわけ。でもいつもニコッと笑う、愛嬌のいい子たちなのですが。何か変じゃない、おかしくはないかしらって発達遅滞の疑いがいつも喉元に骨が刺さってるみたいに気掛かりなのです。彼女たちが彼女たちなりに必要な時間を掛けていずれ育ってゆくことを祈るだけけど。どうやら私はそれを確かには見届けられずに、いずれ彼女らの元から去るだろうという気がしてるものだから・・。

これからの私の行く末がまだ定まらないとは云え、思う存分にいろんな経験ができていることを結構喜んでいえますし。多忙で、あまり便りを書く暇がないけど、落ち着いてしっかりやっていますので、まったくご安心ください。それよりも S チャンのこと、心配してやってね。いい子が産まれるように祈ってやってください。今日たまたま日本でトンネル事故があったってBBCテレビで報道されたの。でも概して日本は平和なんだなあ。オペアの友だちもいつも家からの便りを見ると、そう思うって言ってたけど。日本はいいなあ。朝夕とお父さまも池の錦鯉たちの世話に精出しているんだろなって、懐かしく想い出しています。お父さまもお母さまも絶対に体に気をつけて、どうぞ怪我やらいろんな災難に掛からぬようにね。それだけをお願いしたいのです。

では又ね。さよなら

千鶴子より

.....



1972年11月15日

お父さま&お母さまへ

こちらは美しい秋ですが、そちらは如何ですか？朝は霜が降りるようになり、その寒さはかなり厳しいのですが、邸内のセントラルヒーティングが充分機能していて暖かいので、半袖で過ごしています。

最近眼鏡を新調したのです。日頃そんなに不自由を感じないのに、テレビを観たり、劇場に行ったりするときなど、まったくボォで解らないので、これはダメだと観念して、思い切って買い替えました。まず医者の方箋をもらって、眼鏡屋に予約を入れ、やっと手に入れたのです。すごくレンズの度がきついのですが、実際テレビを観たり、遠くを見たりするときなど、ものすごくはっきり見えるので喜んでいます。頭は痛くなりませんし、これでまずまずいいのだろーと思っていました。それで夜見上げると空に星があることを知ったり、私の部屋の窓から広々とした庭とお隣の整然とした広い庭が見るんだけど、その向こうがなにやらひどく素敵そうには思っていたのだけど、新しい眼鏡を掛けてよく見ると、その遥か向こうには広々としたゴルフ・レーンがあるのです。驚いた！枯れた樹木と緑の芝生のコントラストがほんとに美しいのです。ここ異国で初めての素晴らしい秋の季節を迎えられたことで、心を慰めております。

ところで、語学学校の方だけど、実はここしばらく個人レッスン(週2回)受けてるのです。個人レッスンってすごく贅沢なようだけど、アンナの時間の割り振りに合わせて、どうしても私のタイム・オフがそれしか都合が付かない状況になったもので、思い切って申し込んでみたわけ。1回50分間なので短いですが、やりように依ったら、断然効率的かもと期待しているところです。

それから週3日の午後のオフの時間を有意義に過ごすことを考え始めています。今迄はこの生活に慣れるだけが一苦勞で、ベッドに横になって休養していることが多かったのです。調べてみたら、殆ど私の休みの日の夜にコンサート(音楽会)の催し物があるのです。実は今ちょうどこのレターを、劇場のロビーで、コンサートの休憩時間中に書いているところなのよ！

なんと云っても異国の暮らしはストレスで、本当に心を豊かに平和に保つのは難しいわけですが、音楽会で静謐で穏やかな雰囲気浸っていると、日常の不安や緊張が忘れられるの。心が安らぎます。コンサートのチケットも一番低料金でも楽しみには変わらないし、日本では考えられない素敵なのを安く聴けるのですから、Q子がきっと羨ましがるやろなと思います。それだけは外国暮らしで儲けた！ってしみじみ思うことです。これからクリスマスに掛けて、素晴らしいプログラムがいっぱいなので、嬉しくてたまりません。とにかく愉しみの多い人生であらねばと思うのです。

ところで前々からカセット・テープレコーダーを送ってもらおうかと思ってたのですが、この頃頃にその必要性を強く感じてます。一番小さいので結構です(電池で動くの)。後でプラグを換えたらイギリスでも使えると思うのですが…。こちらで買うとバカ高いお金が掛かるし、あまり郵便料金が掛からないようでしたら、是非お願いしたいのです。それからちょっと荷物の隙間に入るようでしたら、メンソレータムとカミソリをお願いしたいのです。おかしい話ですが、顔を剃るものが全然売っていないのです。お化粧品はマックス・ファスターを使っていますが、日本で買うよりもずっと格安ですし、顔に合うと思います。その他には欲しいものは全然ありません。風邪に気をつけて、どうぞお元気で。では、さよなら

千鶴子より

.....



1972年11月17日

お父さま&お母さまへ

先日の小包みの件、是非にでもというわけではありませんが、ただもしもカセットテープレコーダーを送ってもらえるということでしたら、痛み止めの薬がそろそろなくなるので、ついでに荷物に入れてもらおうかなと思ったのです。こちらの薬局で買えなくもないのですが、薬はどうも怖いので、もし入れる隙間があるなら、送ってください。それから、ご殿毯は嬉しいけど、今のところ誰に差し上げる当てもありませんし、差し当たっては必要ではありません。私が帰るまで取って置いてくださればむしろ嬉しいぐらいです。この V 家の人へのクリスマス・プレゼントは必要ないと思われます。使用人の立場ですから、むしろ控えるべきかと思われます。いつか将来此の国でご御殿毯をあげたいほど親しくお付き合いする人ができるのはまだ先の話だと思ってます。

子どもの世話は、毎日ハプニングの連続で、毎日「あら、まあ！ あら、まあ！」ばかり連発しています。或る日なんてデボラとボール投げしていて、すごくはしゃいでいたかと思ったら、ちょっとお尻をさげてジツとしたままなので、何だと思ったら、オシッコしてるわけ。それで一応躡けとして彼女のお尻をパシパシンって叩いてから、パンツとタイツを取り換えてやるとか・・。

ジャッキーは、時折すごい下痢をするのだけど。それはいつも奥さんのせいで、この前なんて、来客があるので晚餐用のデザートとしてワイン入りのアイスクリームを作ったの。それが美味いからと得意になって子どもにも食べさせたんだけど。デボラは嫌がって食べなかったの。で難を逃れたのだけど、ジャッキーは解んないもので食べてしまい、私はちょっと危ないんじゃないかと思

い傍でヒヤヒヤながら見てたってわけ。やっぱり次の日には凄い下痢で、そんなときはお尻が真っ赤になるやら、それにその臭いで、もう私は完全に食欲を失うわけです。でもまあ、ジャッキーはまったく罪のない、ニコニコした子なので、可愛いんだけど。デボラは3歳で、自己主張はするし、しゃべれないものだから、私ともいい勝負なの。とは云わないまでも、双方ともコミュニケーションするのにスッタモンダして、躡けにも時折すごく手こずることがあるわけです。でもそれが時折、あら、まあ！と感心するほど聞き分けが良かったりする時もあるし、いろいろなのです。彼女が一番騒ぐのは、朝どの洋服を着るかということなのです。私と奥さんが決めた服が気に入らないと猛烈にぐずるので、「規律に従わせる」という建て前からして、お尻をパシパシンってやる必要が出てきたり、まったく溜息を付きながらも、実は私は内心では「彼女も相当やるじゃない！？」と可笑しくてならないのです。まったく小さくとも女には変わらないわけです。ちゃんと自分の服装にこだわりがあるということは知恵づいていることの表れでもあるからして、なんとなくホツとしたりなのです。

奥さんの Mrs.V. 夫人は概して気分の明るい性質で、よくまあ厭にならないと思うほど、買い物やらパーティのことやらに明け暮れしてる。そのタフなのには恐れ入る。私たちにも凄い早口で頻りにしゃべりまくるの。私はラジオを聞いて英語のヒアリングの勉強をしているのとまあ同じだなんて思ってます。別に煩わしいわけでもありませんし、無邪気でいいなって程度の関心です。一日の半分以上は寝室で電話を掛けまくっているような人で、もしかしてその相手は大概ご主人なのかも知れないけど。あれこれ彼から指示を仰いでいるというか。これって或る種‘夫唱婦随’でご立派なのかな？では又。 千鶴子より

.....



1972年11月21日

お父さま&お母さまへ

毎日あまりにも速く時が過ぎるのですが、何という珍しい変わったこともなく、子どもの成長も時折あれっと思うこともなくはないけど・・。まあそんなところで退屈はしてないのですが、まったく辛抱の要る仕事です。ここ1週間ジャッキーが下痢続きで困っています。そんな日は小柄な子がよけい小さく思えます。でも機嫌よくキャキャ笑っていますから、何ということもないのだろうと樂觀しています。デボラは、時折ひどく扱いが難しくなるけど、ひとまずはいい子でいてくれます。でも何でも私の真似をしたがるの。ジャッキーの世話をするのに手を貸そうとして、却って泣かせたり、私の邪魔になるので叱らなくてはならなくなるため、まったく厄介なのです。この前なんてふと見たら、ジャッキーのオムツを取り替えようとしていて、私はびっくりして止めたのだけど。お姉さんぶりがくてならないみたいなの。それがなんと、この前彼女の寝室のごみ箱を覗いたら、オシッコがしてあって驚いたのだけど。まったく、いつもいい子である筈は無いとは云え、どうも妙です。

デボラは、近くに親同士が親しくしている家があって、そこの4歳のロビンという男の子と仲良しで、お互い好き合っているのです。言葉はしゃべれないけど、彼と一緒にのときはひどく機嫌がよく、無垢を絵に画いたみたいないい子なのです。別れの挨拶にロビンとデボラが抱き合っ
てチュッのキスしてたので、奥さんと一緒に嘖き出して笑ったのだけど、いかにも小さな恋人同士みたいなので、実に微笑ましいのです。

さて、昨日は此の国の女王ご夫妻の銀婚式でした。ロンドン中がお祝いムードで和やかな雰囲気漂い、街中パレードがあったり、

バッキンガム宮殿での舞踏会があったりで、それがテレビで放映されましたが、さすが威厳があり豪華ではありました。銀婚式なんて個人的なものですし、エリザベス女王ご自身もなにやら照れておられるような印象でした。それで、昔我が家でもそれらしきことをしたような記憶が蘇りました。「結婚25周年記念」だったかしら？ 京都で染付けのお煎茶セットを三姉妹で買って祝いの贈り物にしたのよね。舞鶴の自宅で皆が集まって、ただお腹いっぱいご馳走を食べただけだったと思うけど、十分に幸せでした。家庭というものは本当に心休まるものだ、と今更にして思います。

世界に夢を馳せて野望を抱くというのもいいけど、結局のところ国家や家庭という単位の中で幸せに自分の志すことをまっとうできたらいいなと思うの。私の場合、まだ欲張って上から上への教育を目指していますけどね。ロンドンなんて教育とは無縁な輩がいっぱいワンサと溢れていて、疲れた顔をして動き回っているのを見て、教育を受けていないこと不幸を思うわけ。「自分を高める」ために、賃金よりも経験を重視するなんていうのは恐ろしく贅沢な感覚なのよね。やはり私は幸せだったし、これからも頑張れるだけ頑張っ
てゆけたらいいなと思うのでした。

では又ね。

千鶴子より



1972年11月23日

お父さま&お母さまへ

そろそろクリスマスの賑わいが始まっている頃でしょう。寒さが厳しくなりましたが、日本から持ってきた私のコートがやや薄めですけど、今のところ十分間に合っています。でもクリスマス過ぎのバーゲンで毛皮のオーヴァーコートを買いたいと思っています。

異国でのこうした居候生活って気の滅入るときがあります。そろそろ26歳になる私ですから微妙なお年頃というか、気分的に賑やかに若者同士騒ぐってのも興味ないし、楽しみはクラシック音楽を聴くぐらいで、殊更打ち興じる趣味も特に無いし、これぞという自信の持てることもあまり無いわけで・・・。

愚痴なことでもないけど、他人の子どもを育てるって難しいなという感慨は深くなる一方です。特に、こうした状況では・・・殆ど奥さんの指示どおりにしてやっていますが、この前ジャッキーの体重を測ったらすごく減っていたっておっしゃって、それから彼女はもう食べさせることに躍起です。1週間ほど下痢が続いたのだから当然だと思うの。(それも、奥さんの作ったワイン・クリームのせいなのだから!)それでも、私が十分食べさせていないのかと思っているみたいに感じるので、いや～な気分なの。奥さんも小柄だし、ジャッキーが小さくたって気にすることないのに、本人はケタケタ笑っているんだもの。この1週間、私はわざと無理にはたくさん食べさせなかったの。あまりにお腹の具合が悪いので心配して・・・奥さんは私がジャックリンに食べさせるとこ見ていないから解んないと思ってたら、体重を測ったというから、笑っちゃうわね。私も育児のプロではないから、一応黙って言われたとおりにするけど。無理に口に押し込んでも吐き出すようになってきて、1時間以上もゆっくり掛かって食べさせなきゃなんないわけ。だから勿論、野菜の煮たのが1時間以上も温かいはずなのに、冷えているから食べれないのだとか、私の身になったら、いや～なこと言うんだもの。それで彼女が自分でやってみようとして、スプーンを子どもの口に押し込んだら、案の定ぜんぶベロツと吐き出したわけ。無茶して食べさせることないのにと、私は思ってしまう。

それから、だんだん成長するにつれ睡眠があまり必要なくなったせいだとは思うけど、食後の朝と午後、ずうっと外で乳母車の中で眠らせられるのが決まりなんだけど、近頃ジャックリンはよく嫌がって泣くのよ。新鮮な空気を吸わせるためなんだって!それも英国の上流階級の育児法らしい!歩行がひどく遅れているのはそんなところに原因があるんじゃないかと薄々思うわけ。眠たくないのに戸外で一人乳母車の中に放置され、勿論毛布に包まれてベルトで体を固定され、それで眠れというのは残酷だと思うの。近頃外気の冷えだって半端じゃないもの。理由ある厳しさとも違う。不可解至極で、下手すればこれって‘虐待’に加担してることにはならないかって良心が咎めるわけ。デボラを世話したオペアの子たちが去ってゆく理由はこれかとドギツとしたの。私もいずれ二の舞かと・・・。

この人種は、自分のやることをすることに絶対的な自信を持っているから、人のやることなどまずは気に入る筈ないし、耳も貸さないわけ。ここでは誰しもがそうなのだから、慣れなきゃなんないと自覚はしてるんだけどね。関係がうまくいってるときはいいけど、一旦子どもが何か事を起こすと、それがこちらの落ち度みたいに思われてるみたいについ被害的に感じたりするし。そんなときは、あー、ヤダヤダって気が滅入る。でもこの人種は気に入らないとズバズバ指摘してくるけど、根に持たないから、くよくよ悩む必要もないけど。私も時折上の空だったりで何かひょいと物忘れしたり結構するしね。他人の子どもだから、そんなにどうしなきゃいかんって自分が思う必要はないのだけど、気を抜いてたらいかんなどは思うし、生来的に律儀なもんでどこまでも横着になれないのが厄介至極です。

では又。 千鶴子より

.....



1972年11月26日

お父さま&お母さまへ

お父さまの錦鯉がすごい賞をもらったレターをいただきましたが、まことに胸のスカッとする快挙でありました。さほど大きな鯉ではなかったのに近畿で総合一位になるなんて、お父さまがよほど精魂こめて素晴らしく育てたのだろうと、想像しています。お父さまも人生の半ばを過ぎて、錦鯉観賞という、誠にいい趣味を持ったものです。良かった良かったと喜んでます。新築した家に自分で設計した石庭をこしらえてだったのですものね。一つひとつ想いが形になってゆくことが素敵よね。何かしら夢中になれるものがあるということはいいことですし。池の中で錦鯉の悠々と泳ぐ姿は美しいわね。心が癒されるし、まことに平和の象徴みたいなもので、いい趣味だと思います。お金儲けが出来ても、それを使う方法があるってことは、働き甲斐のあることですし。私も年寄ったら、平和ななにかを育てる(人間じゃなくて！)趣味を持ちたいものと思います。この頃では此の地で一応落ち着いた生活をしていますが、日本から平和な便りが届くと、帰りたいって本当に思います。今の経験が、いくら貴重だと云え、辛抱の要することで、今すぐにでもちょっと家へ帰ってきたいって息抜きできたらって思うことがしばしばです。

今年中には来年からのトレーニングについて大体の目星はつくだろうと思いますし。一応当たって頑張ってみますが。つくづく自分のやることの難しさが判るにつれて、それが遠い未来を見据えてのことだから、なんととも不確実きわまりないわけで。何でこんなことで苦労してるんだろう、もっと楽なことがいっぱいある筈なのにと思ったり…。でも今の苦労を通り越えたらきっと幸せがあるような気持ちで耐えようと思ってます。

1歳と3歳半の女の子たちって、ちょうど人間らしくなる過程で、毎日おっかしなことがばかりです。特にデボラのすることはメチャクチャなんだけど。結局は私のすることを自分も一度してみたいという願望の表れなのであって、知恵のなせるわざとも考えたら敢えて叱らなくてもいいとは解っていても、一応‘決まり’としてはお尻を叩くことになっているから、もう毎日泣いたり笑ったりのてんやわんや！まったく忙しい子どもです。

此の国の育児に携わるプロのナースの心得としては、「制止」・「禁止」が不文律で、それらが殆どといっていい。つまりは一秒たりとも眼を離してはいけない監視体制というわけで、まるで‘調教’みたいだけど、本当に24時間体を張ってあれはダメ・これはダメを遮二無二繰り返しながら、規律に従うことを幼少時から体ごと仕込むわけ。そこからの観点から言うと、子供の不始末は養育するナニーの落ち度であるのは致し方ないのです。後手に廻るのは未熟だからってことになる。優秀なナニーほど先手を打って制止・禁止で子どもをがんじがらめにする。子供から自由を奪うってことは問題と思うんだけど、トラブルを回避するには案外これしかないわけ。

実際のところ、一つひとつデボラの後始末しながら、もはや彼女が知恵づいてきたと喜んでばかりもいられない深刻な状況だということは明白なの。ジャッキーのお尻に塗る軟膏を彼女の顔に塗りたくって、顔中真っ白けにして、ワンワン泣かせたりする。それから、そのジャッキーが毎日2回ポットに座って、トイレの訓練してる最中なんだけど。ちょっと眼を離れた隙に、そこに自分が座って、なんと大きなウンコをしてるの。バカか？！って一瞬度肝を抜かれたわけ。ジャッキーのようにやれば自分も誉められると思ったのらしい。賢げにお姉さんぶることもあるのに…。

これが普通の子ならば、ビシビシ躰けしていいわけだけど。デボラの場合、ちょっと複雑で。ミルクなどの簡単な単語も覚えられないし、「お名前は？」って聞いても、全然意味が通じなくて、ジャックリンって下の子の名前を言ってみたり、或いはそのまま「お名前は？」を鸚鵡返しに私に聞き返したりで、もうメチャクチャなのです。ここのスピーチの専門家はデボラにおかしなところはないと言ったとか、そう奥さんは云うのだけど。冗談でしょと私などはいきり立つ思いがする。確かにどこか変なの。それが毎日忙しく騒ぎ回っているから、そのうちなんとか修まるかと、私の立場ではもうこれ以上どうにも事を荒立てようもなく、ただ眼を瞑ってるわけなの。ジャッキーの下痢は10日も続いているの。やっと今日、掛かりつけの医者が往診にきました。良くなってはいますけども。ではバイ！ 千鶴子より



1972年11月30日

お父さま&お母さまへ

カセットテープレコーダーを買ってくれたとか伺いましたが。かなり高価なものようで恐縮しています。初めての贈り物だから、奮発してくれただんなってとても感激です。とにかくいずれ小包みが届くのを楽しみに待つことにします。

こちらの生活はいつもの通りで、ただジャックリンのお腹の具合が依然としてすっきりしてないみたい。でも食欲は戻ってるし、前のような(ウンコに)悪臭がないから大丈夫だろうと思ってます。デボラは相変わらずですが、やはりだんだん解ることが早くなったし、多くなりました。子どもの世話は毎日なにかしら可笑しいことがあって、退屈しないで済みます。毎日子どもの育児日記を付けてるの。まあ、毎日が早く過ぎること！

Dr.&Mrs.J.さん宅で2ヵ月半、Mr.&Mrs.F.さん宅で1ヵ月ちょっとの滞在に比べると、ここのV.家での1ヶ月半の生活がまったく短く感じられます。仕事には随分と慣れて、全然へまなこともなくなりましたし。キチッとやることをやれて一人前ですから、殊更誉めることでもないけど。まあ、なるべくトラブルがないことを望むわけで、この調子でゆけば1年もあつという間に経つでしょう。

ところで、『タビストック・トレーニング・センター』に入学の申し込みしたのですけど。来年にならないと何とも言えないんですって。何しろ今年のは10月に始まったばかりだし、来年のは来年の10月だし、先方は次期のことはまだだと思っているのだろうけど、私が申し込み書を投函してから20日以上経ても向こうからはナシの礫だから、ヤキモキして催促のたよりを出したら、すぐにこういう事情だって返信がきたの。焦ってもダメとは勿論承知してるけど、面接の時期は来年にしろ、受理した旨の返事ぐらい寄せたらいいのにと苛立ったり…。トレーニングを受ける人の人数はひどく限定されているし、私の場合、日本人であるってことがハンディになるか、優遇されるかは向こう次第だけど。とにかく入学料の払い込みからして外国籍の場合は英国人よりもはるかに高額なのです。そのセンターは政府の管轄下にあるからなのでしょう。コースの受講生、即ちトレーニー(trainee)だけど、その選抜もかなり熾烈と察せられます。自分が選ばれるという確信もないけど、ここに至ってはもはや後には引けない心境ですし。なるようになるまで待とうという余裕を持つことが肝心のようです。それ迄とにかく英語力が身に付くように頑張っています。ここ迄来たからには、どう考えても万事うまくゆくように思われてならないのですが、私の、この奇妙な‘楽観’の根拠は不明です！

昨晩は、《ローヤル・フェスティバル・ホール》で BBC シンフォニー・オーケストラのコンサートを聴きにいて、そりゃ素晴らしく良かったの。ベートーヴェンの第3だから、もっとも好きな曲だし、Q 子がさぞ羨ましがらうだろうなって思いながら聴いてたの。夕方8時から10時過ぎまで、家でベッドに入ったのは11時過ぎてたけど。こんな豪華な愉しみがなければ、英国生活も味気ないだろうし。ともかく何かワクワクするような、すごい愉しみがなきゃ・・ね。

ところで、以前ヤスダさんにこちらに滞在中に親しくされたケトルさんというご夫婦を紹介されていたのですが、私宛にクリスマス休暇をぜひ一緒にどうぞ招待状が届きました。V.一家は子ども連れでクリスマスの期間ホテルで過ごすので私もアンナもフリーなの。アンナはロンドンにいる伯父さん宅に滞在します。それで私も24日から26日迄、ケトルさん宅に2泊させてもらいます。ロンドンから鉄道で2時間ぐらいのバーミンガムに住んでおられます。此の国でいろいろな人たちに出逢って、いい経験を増やせたらいいなと俄然前向きになっています。

それじゃ又。ではバイ！ 千鶴子より



1972年12月5日

お父さま&お母さまへ

寒くなりました。12月の5日というと、あと3週間でクリスマスだねってアンナが嬉しそうに言いました。特にクリスチャンでもない私には大袈裟に待ち望む理由はないとは云え、4日間の休みは有難いわけで、存分に楽しめたらいいなと思ってます。22日の午後、V.一家はホテルへ行きます。ホテルでの滞在中、クリスマス・パーティとか、子どもたちのためにも特別の催し物があるんだとか・・。まったく日本では考えられないよう

な贅沢さで、此の国では金さえふんだんにあれば何でも愉しめることが盛りたくさんなのです。享樂的な浪費が‘文化’やら‘伝統’の成り立ちに直結しているってことかしらね？

この頃、うんと積極的に人と話さなきゃダメだって焦ってたの。或る晩、前からヤスダさんにバーミンガムのケトル家を訪ねてみるように言われてたんだけど、全然気乗りしないままだったのをふとその気になってご挨拶の便りを出したら、とても悦ばれて、クリスマスにバーミンガムまで訪ねてみることになった次第なのよ。アンナは伯父さん夫婦がロンドンで事務所を持っているということだし、クリスマスには郷里のオーストリアへ帰省しようかと思っただけで、たかが4日間じゃ短いし経費も勿体ないと思って止めたらしいの。血の繋がりのある人が身近にいるっていいよね。でもつい甘えてしまうから、いつでも尋ねて行けるし、ドイツ語も喋れるし。だから彼女の英語力は依然として今ひとつ進歩は無しみたい・・。

ケトル家とは全然関係ないわけで、彼ら家族とご一緒に私どうなるかしら、退屈しないでいられるかしらって心配だけど、今ここで何かしら別の人たちとの別の経験しないと、あまりにも今の生活がマンネリ化して飽き飽きしちゃうみたいな不安感が募り、もう頑張っちゃおうって自分の背中を押したってわけ。日本から一緒だったオペアの女の子たちとはここしばらく疎遠でいる。第一私の環境が特殊だからだけど、もう親しくお喋りする気にもなれないし・・。

一人でコンサートへ行くのは唯一の慰めとは云え、誰とも一切関係ないようなわけで、独りただ押し黙ったままで時間が過ぎてしまう。でも時折一目で日本人って判るのがコンサートホールのあちこちチラホウ居るの。一目で大学教授だって判る年輩の人がかしこまってジッと音楽

に聴き入っていると、若い商社マンがちょっと興奮気味に嬉しげに座っていると。眼鏡を新しく買ったおかげでなにもかも目ざとく解っちゃうの。それぞれの境遇の違いを眼で追ひ、比較しながら複雑な心境になる。なんと云っても此の地で自前で暮らせている人って羨ましい。留学生にしても、国から援助があるとかね。自分を卑下することでもないのに、彼らに対して気さくにコンニチワ！って垣根を越えられないわけ。誰もほんとうの「私」が何なのか知らない異国で平然として当座の‘仮の私’に甘んじられるほど図太い神経に至っていない。むしろ誰でもない私とか何者でもない私とかをお気楽に受容できたらいいのに・・。

でも実際のところ、他人の家に住むとはこれほど神経すり減らすものだということは想像もしてなかった。この前 Mrs.V.の奥さんが私に語ったところでは、或る家庭で、私のように子どもの世話をしているナニーが、皆外出した家の中でちょっと料理をして、どういうわけか、フライパンを火に掛けたままにしちゃって、それで凄い火事にしたんですって。そういうわけでまた一つ緊張せんらんことが増えたという次第。でもその家も災難だけど、そのナニーの女の子はどうしたかしら？もう可哀想だなんて思うの。その子が悪いのは判りきってるとは云え、他人の家で何かとんでもないヘマなことをするって、どんなことか解っているから、もう本当に同情する。

実は私も、この前間違っって子どもの青いタイツを白い洗濯物と一緒に洗濯機の中へ入れたもので、白いタイツが、他のはなんともなかったけど、薄く青くなっちゃって。ギャアッって思った。たかがそんなことで、もう本当にギャアッってなるわけ。あとで奥さんがそれをブリーチに浸けたら、白くなったのだけど。その日はセントラルヒーティングの油が切れて、家の中が寒くて、

私も風邪を引いてたのか、ボォーとした頭でいたせいだけど。セントラルヒーティングのせいにしても何もならない、しっかりせんらんのかと思ひ直したけど。普通なら弁償するとか言うのだけど、この頃ちょっと図太くなったのか、こういう状況ではそういうことは必要ないって解ったので、敢えて申し出なかった。幸い、ソックスは白くなったけど、ブリーチのお陰でね。本当にヘマなことをしても、自分の家でするのだったら、こんなにどうしようもなく疲れるほど悩み煩うことはないのと思うの。だから、やったあとも、あーあ、気にしない気にしないって自分に言い聞かせ、鼻歌歌ってたの。

でも誰が悪いのでもない、おかしいことが時折あるの。彼女はすごい早口なの。だから、時折私が勘違いしてしまうのか、「どうしてそんなことしてるの？」って訊かれて、「あなたがこうしろって言ったのじゃなかったの？」って返答するのも間が抜けていて、まったくバカみたいな気になるの。厭なものだよ。この頃はフンと思って気にしないけどね。他人のことを他人に言われたとおりにやるんだもの、どこかピントがずれることがあるに決まっているのだし。まあともかく言われたことをきちっと一人前にやれるのが精一杯のところですよ。時折向こうの都合で、無理なことも聞いてやっているんだからと強気を貫いています。

でもまあ、ここの奥さんはまずまずかなって思う。食べ物のことではきちんとあれやこれや多い目に見繕ってくれるし、私が午後フリーの日は、その晩の食事とお昼に私だけが食べるものやらもちゃんと気を遣ってくれるとか、結構女主人としては心得ている方です。私たちに友だちを招いて、これこれを出したらいいとかあれこれ言ってくれるし。ちゃんと私たちが不満を言わないようにとしっかり目配りしているの。それって日本みたいに親切からくる心尽くしというのじゃなくて、

もっとスタンドブレイ的な女主人としての管轄能力を誇示しているようでもあり、奉公人の使い方の手際の良さを自画自賛してるみたいなの、スノッブの自己満足の域を出ない印象なの。で、彼女とうまく付き合うコツは、そうした女主人からの施しというか善意をこちらがいつも喜んで有り難く享受している態度でいることなわけ！ちょっとした‘仮面劇’で、そこそこ演技力が要るの！

子どもたちは相変わらずです。ここの家全員が風邪気味で、子どもの涙がグジュグジュ出て、なかなか正常に戻らないの。まあそれはとにかく、気掛かりなのはジャッキーがこの頃私が口に入れた食べ物をことごとく舌先で押し出すの。それやら夜に時折シクシク泣くとか。どうも変な按配です。奥さんは歯が出てきたせいだって言うけど。まったく食べ物を突っ込んででも突っ込んで吐き出すのを見るのはヤーなものだ！まったく、こちらの食欲がなくなる。

ところで私はここの家ではチェリーって愛称で呼ばれている。チズコの発音が子どもには無理と判断したからだけ。ある日ジャッキーに朝から晩までチェリーって言わせるのに必死になったら、晩頃から言い始めて、今ではひっきりなしに言ってます。それで、次はアンナって言わせてみたり、庭番のジョージの名前をも言わせてみたり、その度に罪もなく皆で大笑いして喜んだり、結構楽しんでます。要するに、猿やらイルカに芸を仕込むのと大差ないんだけど。デボラも、それに刺激されて、私がよくジャッキーに＜口を開けなさい(オープン)＞って食事時に言うのを頻りに真似しているのを見て、ああ、遅まきながら少しはしゃべる気になったかと思ってます。彼女の扱い方にも慣れて、時折ダメじゃないのってお尻を軽くピシャピシャやるけど。やっぱり私が疲れているときは、もう彼女の気分についてゆけず、

さっさとおやりなさいってピシャッと一喝するみたいな按配だから、彼女は私の余裕を測る鏡でもありそう。でも、それが無邪気というか、朝なんて、私が降りてくるのを階段の下でハクションなんてやりながら待ち構えていて、私の姿を見ると「ワーイー！」って手を広げて歓迎するやら、なかなか可愛いとこあるの。でもまあ油断がならないのは、よくもここまでやると思うほど、近頃いろんなものに無闇に手を出すわけ。引き出しをひっくり返したり、なんやかんやといたずらをやってくれます。一度なんて私の眼を盗んで父親の書斎に忍び込み、あちこち引っ掻き回したから、もう大変！それも決して親が子どもに見せたくないような大人の秘密を引っ張り出すものだから、呆れるやら可笑的いやら。ご主人たちも形無しです。あんまり聞き分けない時にはブレイルームに入れて鍵を掛けちゃうのだけど。懲らしめは全然効かず、そこで一人で存分に何やら気分を発散させてる。思い切りいろんなものをひっくり返すとか、そうかと思うと、もう一人で退屈って感じで、床に寝そべってバーバー赤ちゃんみたいな喃語を発してたりだけど…。実にけったいな子どもです。

ところで最新ニュースが一つ！このピショップ・アベニュー近辺に、以前私が通っていた語学学校で一緒だった女の子たちが居るのが解ったの。East Finchley 駅の近くで、あらまあって、偶然再会したのだけど。スイスからの女の子たちの。互いにこの奇遇を悦んじゃって、早速に昨日私の方から彼女たちのところへ出向いたの。彼女たちの仕事の引けた後の夕方8時頃から11時頃まで延々としゃべって本当に楽しかった！二卵性双生児なんですよって！彼女たちは全然似てないの。ユダヤ系の老人ホームでオペアとして賄いの手伝いなどしてる。その女子寮で各自個室が与えられ、結構快適そうなの。

勿論その老人ホームは、場所柄からして万事超恵まれた環境な筈なの。案外それが入居者の老人たちは何事にも意地が汚くていつも不平不満たらたらなんですって！ユダヤ系の老人といえば、アウシュビッツの生き残りとは限らないけど、第二次世界大戦中にドイツ・ナチスの魔の手を逃れて欧州本土から亡命してきた人たちが大半ではあるまいかと想うの。かつて英国はフロイト一家に亡命先を保証したのだけど、後に残された彼の妹たちはガス室で無惨な最期を遂げて。その運命の酷さを想うとき、此の地で終の棲家を与えられている幸せに感謝できないというのも釈然としない。彼女たちも呆れていました。それからいろんな話題へと広がったわけ。キャンドルが部屋のあちこちに置かれてあって、それが夕暮れ時のスイスの習慣だそうで、その仄暗い灯りのなかで、それはそれは熱く語り合ったの。私たちも老人になったら意地汚くなぞなりたくないものだから、老人の幸せとか何だろうねとか…。エリザベスの方が3年ほど小学校教師をしていたとかで私とも興味が似ている。ヘレンの方は秘書だったとか。本当にすごくいい女の子たちの。英語力はほぼ同じぐらいですし、お互いを分かり合うのに全然障害はないの。彼女たちは25歳ですって。すごーく若く見えるの。若い者同士いろんなことしゃべり合うって本当に心の晴れ晴れとするものです。明後日は私の家に彼女らが夜訪ねてくることになっています。友だちを持てたことは凄くいい！私はやっと此の地でも楽しく暮らしてゆけそうに心が落ち着くのを感じました。近頃では何でもいろんな人と話してみることに関心を覚えて、気持ちが積極的になってきたみたいです。ちょっとした進歩かな！？

さて、荷物を送ってくださるとか。まったくワクワクするような嬉しいことです。カセットテー

プレコーダーのことは、ラジオ付きのなんて贅沢だと思ってみなかったのですが、BBC の第3ではいつもクラシック音楽が鳴っているって聞いたので、いつか買いたいなあと思ってたの。本当に嬉しいです。随分とお金を使わせてしまいまして、ご免なさいですが。私は将来のすごい成長株（！）な筈ですので、今こしばらくのところはどうぞ宜しくお付き合いのほどお願い申し上げます。

では又。 千鶴子より



1972年12月8日

お父さま&お母さまへ

小包み、受け取りました。ほんとに有難う！大感激でした！開けてびっくり玉手箱で、可笑しくて、しばらく笑いが止まりませんでした。食糧品がごっそりで、なんと云うか、まるで島流しにされた人間への‘慰問袋’みたい！よっぽど私が貧しているか飢えているか、不自由しているみたいな感じ！その心尽くしが無性に嬉しい有り難かったです。でも、送り賃を考えたら一つひとつが使うに使えるほど高価な貴重品になりますわけで、しばらくただ眺めて喜んでます！

奥さんとアンナに見せたの。奥さんが食べ物物はキッチンに置いておいたほうがいいって言ったものだから。それで見せたのだけど。やはり海藻類はけつたいがったよ！いろんな食べ物がふんだんにあるものだから、ご両親はよっぽど私が餓死寸前みたいに思っているんじゃないかしらって皆で大笑い。でも嬉しいものでした。

早速にお昼にコーヒークップに味噌汁をつくって、それでフランスパンを齧りながら飲んだら、まったく何とも言えん味で、懐かしいのやら何やらさっぱり解りませんでした！やっぱり家へ帰ってから日本食はいただくことにします。食器

が第一違うので、どうも日本食を食べても食べた感じがしないのよ。でも今ちょうど家中風邪を引いているし、私は風邪の時ってどうも味噌汁が飲みたい心境になるので、ちょうど良かった、助かったって思ったわよ。とにかく有難う！

それから、送っていただいた写真はとても嬉しかったです。錦鯉の近畿総合1位の優勝トロフィーはびっくりでした！ 凄いのをもらったんだねえ。これは興奮だ！ 我が家の庭の錦鯉どもの写真もすごく懐かしかったです。得意でしようがないお父さまのご満悦なお顔が浮かびましたよ。とにかく拍手喝采、おめでとう！！

此の度、そういえば蒲鉾を食べたいなとか、結構和食への食欲を目覚めさせられました。これに味占めて、いつか又ちよくちよお願いしようかなって俄然欲が出てきました。お蔭さまでこれで少しは‘日本恋し病’が癒されそう。でも、ほんと‘我がまま娘’って感じで、何だか自分でも現金だなあって幾らか気恥ずかしいのです。では又。さよなら 千鶴子より

(追伸：荷物の中の日本茶と茶漉し、大感激でした。日本のお箸って珍しいのか、皆が素敵だ、素敵だって大騒ぎでした。ほんとに有難うございました！)



1972年12月19日

お父さま&お母さまへ

もうすぐクリスマスですね。この頃のロンドンでは秋晴れのようなすっきりした快適な気候で、特にクリスマスといっても、街並みはいつものように騒がしいのに変わりないし、家の中はセントラル・ヒーティングで暖かいし、クリスマスだという季節感が全然ありません。

でも、朝、庭一面に白い霜が降りて、いかにも冬の景色です。毎朝小鳥のさえずりが聞かれますが。クロツグミなのかな、真っ黒な鳥で嘴が黄色いのがよくテラスのところまで飛んでくるの。とっても可愛い！ それから、リスはしょっちゅうチョコチョコとせわしげに庭を往来しています。冬になったので食べ物を探すのが大変な様子で、臆病者なのに窓の外のテラスの近くまでよくチョコチョコとやってきては私たちの物音にびくついてはまたチョコチョコと退散するわけです。リスってほんとうにフサフサした尻尾が愛嬌があって、実に可愛いのです。

この近くにケンウッドという素晴らしく広々とした緑地があるのだけど、そこで珍しいものを見たのよ。いわゆる‘鳥寄せ’というのだけど。鳩や雀みたいな小さい鳥やらは勿論だけど、それにリスすらも、年老いた男の人の側に寄ってきて餌をもらうの。リスなども全然恐がらずに、チョコチョコ寄ってきては餌を短い手に掴んで、藪の中へまたチョコチョコと帰ってゆくよ。小鳥は、男の人が差しのべた手のひらに舞い降りてきて、ナッツなどの餌を漁るやらしてるわけ。男の人はしょっちゅう柔らかに口笛を吹いていました。うまく餌付けしてるものよね。通りがかりの人は皆珍しげに立ち止まって眺めていたのですが。私もすごく愉しかったです。

それから、ちょっと歩くのに疲れたのでベンチに座って通りゆく人を眺めていたら、何と種類のさまざまな犬が通ること！ ちっちゃくて手のひらに乗るぐらいなのがチンコロ歩いているかと思えば、でっかいのがドシドシ歩いたり、その大きさはもう想像を超えてたよ！ 頭の毛の先にリボンの付いているのがいたり、どうしてこんなお多福な顔をした犬がいるのかしらって、可笑しくて、思わず吹き出したくなるのがいたりなのよ。

人間の方も、服装も顔かたちも皆さまざまで、日曜日の午後散歩に公園に居るのは労働者階級や年老いた暇な人々が多いのですが、皆、何だか人生にうんざりしているって顔つきで、それでも口だけは達者にペラペラ動いているのです。よく食べるし、よくしゃべるの、此国の人間は！

この前V.家でカクテルパーティがあって、30人近くのご来客がお越しでした。夜の11時～深夜2時まで、その騒がしさにはうんざりしました。まことに恐ろしく喰ったりしゃべったりということにエネルギーの。日本の人々とその生活態度がひどく違うの。紳士・淑女でございまして大層きどっているけど、結局は怠け者じゃないのかって思わず慄然としてしまう。誰しも豪華な暮らしに憧れるとしても、やはり‘享楽主義’ってのはどうも感心しないのです。

友人のスイスの女の子たちは、クリスマス・お正月と母国スイスに帰省します。あ～あ、日本のお正月はいいなあ！あの静謐と慎まじやかさ、そしてぬくもりが懐かしくてたまりません。

では又。 千鶴子より



1972年12月23日

お父さま&お母さまへ

今日の朝は、いつぞや泊まったことのあるカソリック系女子寮で迎えています。昨晚それぞれにV.家を出たのです。奥さんはクリスマス休暇の間ずっと家に居てもいいって一応言ってくれたのだけど。アンナは伯父さん宅に行ってしまうし、私独りがあの大きな邸に残るのはなんとも厭だったもので、この女子寮へ来ました。屋敷内の宝石や貴重品は全てご主人の会社の金庫に預けて、家の中すべて厳重に戸締りして、誰かが侵入してきたら警報器が鳴って警備員

が駆けつけることになっています。そういう状況ですから、私一人邸宅の3階の隅の部屋に居て、ちょっと変な物音がするとビクッとするというようなことでは休んだ気になれないし、どうせ女子寮に泊まる料金は安いのだし、それに極力他の人たちと交わるようにとも考えて、ここへ来たのです。

一度来たというだけの関係だけど、シスターたちは皆とても喜んで迎えてくれました。女ばかりで清潔で快適に暮らしている。平服を着てるから最初気付かなかったけど、どうやらシスター(修道尼)らしい。道理でって合点がゆく。雰囲気こそそうだし、泊り客からの安い宿泊料金だけで暮らしてゆけるはずないね。おそらくドイツのカソリック教会から運営資金の援助があって、ドイツの女子でここロンドンで働いている人のためとか、或いはドイツから観光に訪れる旅行者にサービスする施設なのかも知れない。とにかく私みたいなのでも場違いに感じさせられずに過ごせるって有り難いです。居間の棚には膨大な量のクラシック・レコードのコレクションが並んであったり、それから彼女らの趣味が手芸なのか、壁のあちこちに可愛らしい作品が飾ってあったりで、とてもくつろげるのです。皆、お化粧もしないで、かつよく働くの。でもどこかしらやっぱり何かを諦めきった風情があるのが解るのね。昔、尼僧になるのもいいんじゃないかと夢見たこともあったけど、やっぱり考える程口マンチックじゃないと思った。諦観と快活さとが彼女ら一人ひとりの裡でどう折り合い付いているのかしらって感服した！Mrs.V.夫人のように、社交に明け暮れ、あまり頭がいいとも誉められる人柄とも思わないけど、ともかくいつも賑やかで買い物にお喋りにハッスルしているのとは大違いだね。いろんな人を見て、その生き方を吟味して、自分の生き方を決めてゆくことはいいことですよ。

さて、この前、Mr.&Mrs.V.からクリスマスプレゼントをもらいました。期待などしてなくて、ちょっと意外！なにしろ彼らはユダヤ人なのだから。でもおそらく‘同化ユダヤ人’といってすっかり英国の暮らしに溶け込んでいるのかも…。私には素敵なハンドバックをいただきました。それからデボラとジャックリンからということで石鹼の詰め合わせセットをもらいました。アンナも庭番のジョージもそれぞれいただきました。よく気を遣ってくださってと、そのご親切に涙が出るって感じでは全然ないわけですけど。でもまあ、Mr.&Mrs.V.ご夫妻っていい方よなって一瞬でも思えるのは双方にとって悪くありません。私たちが彼らにプレゼントをあげることはしません。対等な関係じゃないのだからです。ただ有り難くいただいております。その代わり、昨日はデボラとジャックリンに特別サービスで、アンナと私はクリスマス・ソングを歌ってやりました。2人とも歓んじやって、ワァーワァーと物凄い歓声でした！

ともかく今、Mrs.V.夫人がホテルで子どもたちの世話にてんてこ舞いしてるかと思えばちょっと痛快な気分！2ヶ月前、ここ女子寮に滞在して職探しをしていたことを振り返るとよくもまあ順調にいったものだと思えます。人の運命というものは不思議なものです。バーミンガムへの旅行も間近に控えています。ここでゆっくり休養し、更なるいい経験をいっぱいしようと思っています。いずれ又。さよなら

千鶴子より



1972年12月28日

お父さま&お母さまへ

テープレコーダー(ラジオ付き)届きました！22日に税関で検査を受けています。素晴らしいのでびっくりしました。受け取る際、一万円

近くが税金その他で徴税されました。この前ご主人がドイツからレコードをプレゼントにもらった際もそこそこ課税されたやら。そんなものだと思います。とにかく日本から送ってもらったというだけで私はもう有頂天です！ほんとに重宝します！テレビだと画面でなんとなく解ったつもりになるので解んなかったけど、ラジオだと耳が言葉により敏くなるみたい。それに就寝前、部屋でラジオの音楽を聴きながらレターを書いていると、今日一日あった散々なスツァモンダを一切忘れてるの。ほんとにお蔭さまで助かってます！

もうすぐ夜の10時だから、明日7時すぎに起床だから、そろそろ寝る支度をしようかと思うと、あーあ時間があまりにも短いなと思う。だから十分睡眠をとった後も、朝特に日本の夢を見て起きた後なんて、なんとなく気持ちの切り替えができないのよね。だから、デボラがこっちの思う通りにさっさとせずに、グズグズゴチャゴチャやり始めると、「早くよ！」ってピシャってお尻叩いてしまう。でもデボラを終えたあと、ジャックリンの部屋にゆくと、眠たげな顔でニコニコと笑いかけると、「ジャックリン、おはよう！」と話しかけていると気分がやっと戻ります。皆が皆、ジャックリンをベタ誉めなの。一方デボラは話せないこともあって、不利なのは解るし、なるべく私は彼女らを平等に扱うようにし、むしろデボラにはいっそうに気を付けて極力話し掛けます。私がアルファベットの言い方を教えてやると彼女一生懸命真似るの。可愛いよ。でも、まずまず明瞭に発音できる単語は‘アップル(林檎のこと)’ぐらいで、あとはベロベロバァーバァーなの。一つの単語が言えるのに2ヶ月掛かるんだから、まだまだ不確かだけど、サンキューとプリーズが促されて最近どうにか言えるようになったけど、意味がもう一つ解んないみたい。自分の名前が言えず、妹の名前ばっか

り言ってるの。こちらにしても、もう両手を挙げたくなる！母親に似て、はしゃぎ屋で、綺麗な服を着て外へでてゆくのが大好きなの。どんどん不可解になる。マニキュアに興味を持ったり、指舐めの癖が止まる塗り薬を塗ってやると、ゲラゲラ喜ぶの。それに私のアイ・シャドウとか口紅に興味を持って触りたがったり。この前なんか、奥さんがデボラのポケット（押入れにあったレインコート）の中に、たくさんのメークアップ化粧品を見つけて、ギャー！だったのよ。どうやら時折口紅を塗っていた形跡があるの。とにかくギャーと思うことがしばしばで・・。ジャックリンと遊んでいて、ビャーとオシッコしたり。それだけでは済まない、この前ひどかったの。2人をしばらく放っておいたら、あんまり妹の方が泣くので、様子を見に行ったら、大してどうということもないのに、いやにヒステリックに泣いて止まないわけ。後でギャーなの。両手と背中と脚に大きな痣（あざ）なの。歯型の痕（あと）があるのよ。デボラがジャックリンを叩いて噛んだのに間違いないの。もう信じられない。呆然として、言葉を失った。気が動揺してデボラを叱る気にもなれなかった。医者の方で、確かにそうだと判明したんだけど。奥さんはきっとジャックリンがなにかデボラのもを奪ったので、デボラが怒ったのだらうと言ったけど。日頃2人だけでケタケタやることがよくあるのでつい気を許して放っておくとまったく大変なことになるわけなの。デボラは言葉が使えないので、情緒のほうもかなり未分化みたい。もう解らない！

ところで、ケトルさんから手紙がそちらにも届いてるでしょ。内容は、娘さんと知り合いになれてまことに嬉しかったということの筈。朝一番に寝室にあったかい紅茶入りのマグカップを届けてくださったり、そりゃ嬉しいもてなしを受けたのよ。クリスマスプレゼントも用意してくださっていて、

私からもそれぞれご夫妻には差し上げましたけどね。ではいずれ又。 千鶴子より



1972年12月28日

お父さま&お母さま

新年が近づくにつれて、なぜか日本が懐かしくて、又々レターを書いています。今晩はこちらに來客があり、ここの人たちが晩餐している間に私はさっさと食事を済ませ、手紙を書いたのです。そして、台所で後片付けの手伝いを済ませたあと、郵便ポストまで走って行って投函し、それで走って戻ってきたのですが。部屋でくつろいでお風呂をも済ませたあと、又レターを書きたくったのです。

この前ケトルさん宅にお邪魔した折に、ジャファリンという女の人（ヤスダさんの元同僚）がわざわざ私を訪ねていらして、いろいろお喋りしたの。彼女らの専門の『精薄児教育』について最近の情報やらも伺い、俄然私も働きたいって思ったわけ。

でもほんと実際自分の足元見れば、それどころじゃないの。この頃、私自分にかっかりしてる。デボラとのことだけど、何とも変だ、うまく行ってないって焦り出してるわけ。ここに至って徐々に事態は自分の責任を越えているって正直思うの。近頃何かの折にデボラが制止が利かなかったり、気難しくなったり、バカじゃないかと私の方が呆れたり、イライラすることがしばしばなの。概して母親に似て、機嫌のいい子なのだけど、いわゆるしっかりした聞き分けのいい子にはなれないみたい。こちらの言ってることが解っているのやら何やら、会話が成立しないから意思の疎通が厄介なの。それでも、この頃頻りに一生懸命私にゴニャゴニャと話そうとするのだけど。ジャックリンという妹の名以外、ベロベロゴニャゴニャ意味

不明なの。私は取り敢えずニコッて笑い掛けてはあげることにしてるけど。まったく困り果ててる。

今日なんて、アンナにちょっと買い物頼んだのでお礼にチョコレートをやったのをデボラが目敏く見ていて、自分も！ってギヤァーって喚き始めて、側にあったビタミン剤の瓶に飛びつこうとしたの。私の寝室でのことだけど。それを制止して、代わりに飴玉をやってなんとか収まったかと思いきや、なんと後でこっそり忍び込んできて、ビタミン剤を食べたの！あんまり苦いので、吐き出したりしたってわけ。変なことに後で眠くなったもので、もう大騒ぎ！本当に眼が離せないの。

私は今日、7時半から9時半まで働いたの。くたくたに疲れると、いい加減にデボラを蹴っ飛ばしてサヨナラってしたくなる。疲れた母親ってこんな気持ちなんだなあ、世の中綺麗事ばかりではないんだあって、そんなあれこれを考えながら、些か自分にがっかりしているのです。

では又。 千鶴子より



1972年12月29日

お父さま&お母さまへ

そろそろ新年を迎えようとしています。こちらはクリスマスの浮かれ騒ぎもひとまず終えて、ちょっと気の抜けたふうに仕事に掛かり始めています。このレターがそちらに届くのは正月過ぎてからだと思います。ほんとうに遠いのだなって改めて思います。家へ電話して声を聞きたいって思うのはしばしばだけど、国際電話の料金って3分間で3千円以上もするってことだし。やっぱりお互いに感極まって泣いてしまいそう。だから今のところいつも思いとどまるわけ。でも、ふと今電話したら寝てるやろかって、そちらとの時間差を気

に掛けてるの。こちらの生活に追われて、あまり日本を恋しいとも懐かしいと思わずにいたものが、先日贈り物が届いて以来、急激にまるで里心が付いた感じなの。

それに、ケトルさん宅でしばらく滞在している間のことだけど。彼らは日本語をリンガフォンで勉強してるの。ローマ字で日本文が判るのよ！名古屋の人と文通しているとかで、意外にも日本のものをいろいろお持ちなの。雑誌《カメラ毎日》を見せてもらったりして、あーあ日本ってこんなだったなああって記憶を蘇らせたり・・・。ちょっと寝た子を起こされたかなってところです。

ついでに云うと、すごくドギッて胸打れたことがある。パーミングムのケトル家は本当にごく普通の慎ましいワーキングクラスの家庭で、今の私のように毎日贅沢な生活をしている富裕層を見慣れている眼にはちょっと質素に映るぐらいでした。でも、その生活態度は家族が皆気持ちよくいたわり合って、家で静かにテレビを観たり、おしゃべりして楽しむという具合で、このV.家みたいに絶えずレストランかパーティの席で贅沢なものを飲み喰いして賑やかにお喋りにハッスルしていないと落ち着かないというのとはえらく趣きが違うのでした。殊に、クリスマスの朝に近隣の村の教会に赴き、ミサに列席させていただいたのだけど。慎ましくも素朴で、でも誰もが清らかな雰囲気、牧師さん始めどなたも、異邦人の私にメリー・クリスマス！って歓迎の握手をしてくださったり、実に温かいのでした。彼らと話しているうちに、私はかなり英国でも特殊な環境に居るんだということに気付かされたの。

この頃のロンドンの風潮としては、中流階層でちょっとお金に余裕ができると、オペア

とかディリー・ヘルプとかをまずは雇うの。それがステータスの象徴というわけ。何しろ階級社会だから「右倣へ」ってわけで、つまり上層のやることを一事が万事真似したがるわけ。要するに、スノブ(上流きどり)ってわけ。私の眼に深刻に映るのは誰しもが自分の手を使うことを厭うことなの。

だからほんとに驚いた！ Mr.ケトルって、食事の後片付けや、用意までも、まるっきりケトル夫人と同じに立ち働くの。時にはパイプを咥えながら、＜自分がするから、座ってテレビ観てなさい＞って奥さんに言って、キッチンでせっせと洗い物をしてるの。男だから女だからって区別が全然無く、ほんとうにいたわりあって暮らしているって感じ。60歳代の夫婦のごく自然ないたわりが驚嘆に近いほどの感激でした。我が家では料理とかお母さまがすべてするのだけど(大体の日本の家庭はそうだね)、そのうち平等にやりましようってことになるかも知れないって予感がしたの。考えてみれば、夫婦共働きの場合なんて特に、家事全般助け合ってやるのは当たり前。一緒に暮らしてるってことはそういうことよね。

ここの V.家の人なんて、食事はすべてアンナに運んでもらって、後片付けしてもらって、まるで自分の手を煩わすことを知らない。それを怠け者として侮蔑するよりも、私なぞはむしろ、なんと窮屈で不自由なのかって憐れんでしまうわけ。長い爪に真っ赤なマニキュアしていれば、それはなるべく手仕事は厭でしょうし。でも子どもがせっかく手を洗って欲しいとかお尻を拭いて欲しいって訴えてママのところへ行っただのに、遠くにいる私たちをわざわざ呼びつけて頼むとか、もうバカじゃないか、そのぐらい自分でしたらって言いたい時がある。近頃なんとアンナが頻りに奥さんはバカだって怒ってます。そりゃあ、自分で何も

しないくせに、すべて一切合財自分が管理監督してないと気が済まないから、ああしろこうしろと気紛れに次々に指示を飛ばすわけで、実際にやる者との間でトラブルが起こるのは当然だけど。奉公人として忍耐を心得ているアンナがようやく我慢の限界に来てるらしいの。不協和音が漏れ聞えてくるけど、奥さんはまだ気付いてなさそう。たかが18歳の小娘に‘バカ呼ばわり’されて、29歳の女主人も形無しで、まったく舐められているのが分らないのだから、あーあ！って、もう言葉を失う。何しろ小さい頃からパーティの席でチャホヤされて育っているので、自分を見詰めるとか内省するとかいう賢さが欠落してる。でもいつもケラケラと朗らかで全然悪気のある人じゃないのだけど・・・。

デボラがこの頃、あっちゃこっちゃのものをいじくり回す。それがいかなる制止も禁止も馬耳東風ってわけで、一向にそうした衝動が止まらず、まったく甘やかされてしまっているせいなのか、それともほんとにおバカなのかと私は真剣に悩まざるを得ないわけです。アンナは、デボラは奥さん似で、ジャックリンはご主人似だって言います。その通りだけど、奥さんへの怒りをデボラへと矛先を向けるのはまずいし、私も一緒になってデボラをバカ呼ばわりするには、どこかで私の中で‘セラピスト魂’ってのがあって、自らの非力を思い知らされ傷付いてしまう。下の子は確かに賢そうで、とっても可愛いのは間違いない。でもご主人は勿論紳士然とした方だけど、どこか抜け目ない油断のならない雰囲気漂う。そんなとこジャッキーに似て欲しくもないけどな。まあ、そんなこんながいろんなことあって、もう笑うしかない！ほんとと退屈してないよ。

ではバイ！ 千鶴子より

.....



1973年1月1日

お父さま&お母さまへ

あけましておめでとうございます！

今日は1月1日の朝です。英国は一応祝日にはなっているのですが、それがユダヤ式なのかどうか分かりませんが、ここのご主人はいつものように出勤して、アンナもジョージも普通の日と同じ様に朝の仕事を始めました。だからまるで元旦を迎えた気分じゃありません。そちらでは今頃は紅白の歌合戦を見終わって、お社へ初詣に出掛けた頃かしらとか、頻りにあれこれ日本のことを思い浮かべています。

今日はアンナの午後の休みの日で、私の方は一日この人たちと付き合わなくてはなりません。でも昨日、つまりは大晦日、私は午後休みの日でしたので、ちょっとこの頃疲れぎみなのでずうっと寝てて、夕方6時過ぎにふと思い立って外出しました。その日はひどく寒い日で、道路はうっすらと氷が張っていて、足元が歩きにくいのですが、全体にうっすらと白っぽく美しい夜でした。それで、ビショップ・アベニューをさっさと歩きながら、でもなぜか頻りに涙ポロポロ泣けて仕方なかったのです。それからヒョイとバスに乗り、ハムステッドという町へ向かいました。そこは上品な小さな町で、芸術家たちの住んでいる町とかで、立ち並ぶ店々は、まるっきり東京の赤坂界限のように高級で、飾りつけも洗練されていて、その時は殆ど閉店していましたが、ウィンドウから中を覗くだけでも充分に楽しいのでした。それからちょっと寒くなったので、ピザの美味しい店へ入って、‘アメリカ’という名前のピザとコカコーラを注文しました。そこへは以前スイスの女の子たちと一緒にいったことがあるの。3人で別々のピザを注文して食べ比べしたら、エリザベスの注文した

‘アメリカ’というピザが一番美味しかったので、次はそれにしようと思ったのですが、昨日のはちょっと塩辛い味付けで、やはりコカコーラが似合いました。窓の外の景色を眺めながら、通りは人影もまばらでしたが、可愛い店内の飾りつけとかがとてもいい雰囲気、しばらくボーとくつろいで時間を過ごしていたのです。

それから、店を出て、タクシー拾おうと思ったのですが、やっぱり大晦日で皆急いで家へ帰りたがっているのか、全然拾えず、ちょっと歩いてバス停までゆきました。すぐ側にはなだらかな丘(そこは公園なの)が見えて、白っぽい樹木とあちこち点在する灯りが綺麗でした。池の水も凍ってました。芝生は霜で真っ白になっていました。本当に日本の大晦日みたいに冷え込んでました。バスに乗って、またバス停で降りて、ビショップ・アベニューを一人で歩いて戻ってくると、人っ子ひとり誰も通らないし、車は激しく行き来しているけど関係ないのだから、一人で大声で軍歌を歌い始めました。だんだん調子に乗って行進調になって、気分が晴れ晴れとして、どうやらやっとお正月を迎える気分になりました。9時前に帰宅し、お風呂に入って、その前に日本茶を飲みましたが、体が冷え切ったあとはいいものです。ヤスダさんから、京銘菓を送ってもらっていたのを齧りました。それからテレビ映画を観て、やおら宿題に取り組み始めました。日本文化のことやらあれこれがテーマで、それがなかなか難しくて思うように書けず、手間取っているうちにいつしか12時になって、アンナとくハッピー・ニュー・イヤー！>を言い合いました。新年を迎え、身が引き締まります。本当にこの一年、たくさん面白い経験をしたいものだと思いました。

では又。さよなら 千鶴子より

.....



1973年1月8日

お父さま&お母さまへ

この頃アンナと私は、朝の9時と11時に郵便屋さんが配達に来るのをドキドキして待ち構えています。やっぱり手紙が来るということは嬉しいことですし、何か気分がパァーとなるの。読んでしまえばお終いで、なんだ、皆は平穩無事なんだなんてことで安堵するだけなのに…。ポケットの中に誰かからの手紙が入っているって、仕事の折ちょっとと思うだけでも心が慰められて、嬉しいものです。

この頃、ここの家の仕事にも慣れて、全然すべて怠りなくやれるようになってきたけど、ちょっとお疲れ気味で、朝7時すぎに起きるのが厭で困ります。そんなことを想うとき、看護婦のシフト制で夜勤があったりと、お母さまなんて実によくやったものだと感じるのでした。それからここでの人間関係のことだけど、私は賢いからトラブルなんて起こしません。それからこの頃私の方から何でも奥さんに言うようになったの。食べ物でもまずければまずいって言うし、お昼の軽いものでも何々を買って欲しいとか、まったくシャーシャーとやってます。言わなきゃ解んないのだから！私が彼女の扱いの要領をようやく掴み始めているってことだけ…。

でもそれが滑稽な話なの。ハムが欲しいって言ったときはガッカリした。ユダヤ教では豚肉のものは絶対買わないんだってさ！アンナと2人であとで大騒ぎ。＜まったく悲劇だ！いいことなんて何もありません、ここの家は！＞とかアンナなんか悪態ついて、まるで『生長の家』式の感謝感謝！なんてもんじゃ無いわなって内心可笑しくなったりでした。相手が悪い！人間が頑迷にできてるというか、猛烈に手ごわいわけ！

それから最近急激に冷え始め、それで例の黒い半コートではもう寒くて風邪を引いてしまいました。で、昨日意を決して買い求めたのがマキシのロングコートなの。英国製なのでまるっきりどっかりしてるの。一応似合っはいるけど、私らしくないので溜息を付いている。でも絶対にあったかいよ。もう風邪引かないだろうと思ったら、まっいいかって思ったけど。‘私らしくない’って感覚はどうも落ち着かないものです！

さて、依然としてタビストックの研究所からの連絡待ちです。私の保証人から推薦状を受け取ったり、あちらはあれこれ吟味してる最中かと思われます。どういう結果にしろ、これからお父さまとお母さまにはいろいろとお願いすることが増えるかと思われますが、私は私で此の地でお金を稼げる方法も解ってきたことですし、出来る限り独立独歩でやることは忘れないでいますのでご安心ください。そろそろまともな仕事をする事を考えています。お給料のこともだけど、なるべく多くの子どもに接する機会が必要です。やはり日本と英国の違いを踏まえて学ばねばならないことが多々あり、とにかく経験しないと結構気持ちちは欲張ってます。でもまあこしばらくはこのV家に居ます。子どもたちの成長がとても興味深い。ジャッキーなんてこの1週間あれあれと思うほど動き始めたし、デボラもよく気が付いてあれこれ用事が出来るようになったのです。

スイスの女の子たちとは会えばギャーギャーとっても嬉しいの。それから先日、以前からのオペアの友人のクミコさんが訪ねてきてくれて、家から届けてもらった日本食と一緒に食べたのよ。釜飯が本当に良かったの！お箸で食べれて嬉しかったし、やっぱり改めて親とは有り難いものだと思ったりでした。バイ！ 千鶴子より

.....



1973年1月10日

お父さま&お母さまへ

今日は個人レッスンを予定してあったところ、Mr.ニューマン(英語教師)の都合で、それも奥さんの体調がかなり悪いとやらで急遽キャンセルされて、家庭奉仕をしてるらしい。仕事熱心でない人でもないから、イギリスの男性はどうも奥さんには甘くなって気が一瞬して白けたの。奥さんの尻に敷かれてるってやつかな。ちょっとこちらの意気込みが空振りしたせいか、辛辣すぎるかも知れないけど。彼にはタビストックへの願書提出にあたり、格別にお世話になったの。まったくの個人的な事情に即して、しかもそこそ格調高い文章を書くってこと学ばせてもらったことになる。やっぱりラッキーだったと思うのよ。

ところで、この前、『大英博物館』に行ってきました。イギリスがかつて栄華を極めた頃に集めに集めたもの、つまり外国から分捕ってきたものを見たわけですが、もう気分が変になりました。嗜好がまるで合わないというか。昔々のエジプト・ローマ・ギリシャのものが、各室に別々に展示されているんだけど、まるで迷子になりそうなほど部屋がいっぱいあるのね。まあ、よくまあと思うほど並びに並んでいて、かなりしつこい絵が多くって辟易したの。でも、古代ローマン・ガラス器などはあれまあ！と感嘆するほどにモダンな感覚が息づいていたり…。あんなものは驕(おご)る者が奴隷同様に扱っていた職人に作らせたのであろうけど、なかなか人間性なぞ認められない苛酷な状況でそれでも人間の創造しうる限りの美を追求していったということは大変なことだろうと同情したの。それからあちこちの部屋部屋の隅には必ず監視の守衛さんがいて、それが一様に年老いた英国人で、かつての退役

軍人かも知れないけど。ただ椅子に腰掛けて、昔々の遺物に埋まってひっそりと所在無げにしているの。博物館とは云うものの、泥棒の巣窟みたいで、なんとも気味の悪いものでしたからもう長居は無用って感じで…。それからミイラを見たんだけど、こんなにしてまで、未来永劫生き続けたいと願ったのかと思うと、その執念が浅ましく呆れました。まったく吐き気がしたけど、昔々の驕る者の威力というのか、権力の物凄さを思い知られたの。やっぱり牧畜民というのは我々農耕民族とはまるっきり違う、追い求める対象が何であれ、とことん生来‘狩人’なんだということをまざまざと感じたり、学ぶことの多い一日でした。彼らと互角に勝負するなどということはどうも剣呑に思われてならない。クワバラクワバラってつい逃げ腰になってしまう自分を持て余しぎみです。

それからね、この前、アンナの同郷人が一時帰国して、アンナのお母さんからアンナに預かってきたとかで。ケーキと燻製のソーセージでしたが。私もお相伴に与ったのだけど、あんな美味なソーセージなぞ食べたことがない。素敵だったの！我々には想像できないけど、豚とか他にも家禽類というのか、七面鳥などいろいろと宅地内で養っていて、時期が来ると潰して(!)、ハムやらソーセージとかを手作りするんだそうよ。燻製にするには煙突の中に吊るしておくんですって。本当にいい香りと味で、もうこれって芸術だって感じ！それが家庭の味だからねえ。感嘆してというか、負けた！って感じで声を失ったよ。

ここの奥さんの Mrs.V.夫人なんて、まるで‘味’を知らない人なもので、まったく呆れてアンナと大笑いすることが度々なの。味を知らないということは致命的で、どうしようもないのです。古くなった肉のスープを素敵だなんて言っている

んだから、我々が吐き気のするものがなんで素敵なのか、まったく時折呆れて、喧嘩する気にもなれない。しかし英国人ってのは全般に、探究心がないというか、審美眼の問題だけど、まるで部屋でも食べ物でもなんでもだけど、美的感覚に乏しい。特に料理がなにしろ大雑把で、味が解んないってのはほんとどうしょうもないけど、この‘貧しさ’をどう説明したらいいのかと頭抱える。その一方、アンナが度々、お母さんがどんなに料理上手だったかということ自慢するんだけど。この前小包みでチョコレートとか痛み止めの薬とか送ってもらってたけど、どこの母親も同じだなあって微笑ましかったの。子どもに恋しがられる母親であるってことは、どんな偉い学者になるよりも尊いことだって、しみじみ思ったりしたわけ。

奥さんがデボラに園でのおやつ用にと、豚にでも食べさせるような、庭で摘み取った、萎びた林檎を持ってゆかせるのを見ては、アンナと一緒に腹を抱えて笑ったり、デボラを気の毒がったり…。ケチというのでは全然なくて、ただ味覚なの。奥さん、ほんとに分かんないみたいなの。信じられない思いで、ただもう途方に暮れるばかり。子どもたちが憐れです。母親になるとはいかなる必要条件が備わっているべきなのかとしみじみと考えさせられる今日この頃なのです。

それがね、ここに至っては、あんな母親じゃ子どもたちが可哀想だというに留まらず、私たち使用人だって大いに可哀想だということになりつつある！アンナが4月初めに一時帰国する予定なのです。勿論この仕事を辞めてなんだけど。それで私と一緒にいこう行こうって誘うのです。彼女、近頃はカレンダーばかり見えています。でも、それまで頑張れるかどうか心許ないようなのよ。では又ね。 千鶴子より

.....



1973年1月17日

お父さま&お母さまへ

テープレコーダーの件、とんだお騒がせ致しまして申し訳ありませんでした。梱包の際にそちらでマイクを入れ忘れたのかと勘違いして、慌てましたけど。確かに説明書を改めてよく読んでみたら、マイクが内蔵されているということなのね。まことにその通りでした。無知とか偏見とかというものは怖いものです。それで外のマイク無しで録音してみたら、凄い感度なのにはびっくりしました。これじゃあ西洋人が『ソニー』に憧れるのも無理ないなと思った次第です。英文が読めなかったというのではなくて、あまりこの機械が新式で私には会得しきれずなのですから、可笑しいものです。でもこれでほっとしました。

ロンドンにはたくさんステレオやテープレコーダー(日本製)を売っている店が幾つもあるのですが、ピカデリー・サーカスとかロンドン中央ですけどね。面白いことにいつでも何人かは(3, 4人以上も)立ち止まって窓越しにじっと見惚れているのです。そういう現象はあまり他の店では見かけませんし、日本でもちょっと珍しいでしょ。どんなにこの国の人間たちが日本製品に憧れるかが解るというものです。そう云えば、このテープレコーダーをかなり大きなソニーの販売店へ持っていったわけ。それは電圧を変えてもらうため。ある特殊な電圧を切り換えるものがあるということでしたけど、在庫がないとかで、他の店にまた持って行って尋ねなきゃなんないのですが。店の販売員なんて大して知識もないのにあれやこれやと説明書を眺めたりしていたけど、それで他の店員もかなり集まってきて、結局のところ私の希望するものは無いということなのに、ぺちゃぺちゃとくうん、いい機械だ・・>とかなんとか、頻りに

撫でたり擦ったり。一種の玩具ではあるけど、文明人の玩具だから、日頃文明人ぶって偉そうに振舞う英国人にそこまで感心されるような高級品を自分が手にしているってことは妙な気分です。なにしろピカデリー・サーカスのど真ん中のことでしたから。成る程、日本も頑張っているわいなんでついほくほく嬉しくなっちゃったようなことでした。

今、付属品として付いていたテープを掛けたら、なんと日本の歌の調べが流れてきたの！ ジーンと来ました。これって‘慕わしや’とか‘愛(いと)おしや’の世界だわね！それでたづねり日本を堪能した気分になれたのが嬉しかったです。でも、いつしか私もこうしたしみじみとした情趣に気分が乗らなくなるってことになるのかしらって、ふと内心ドギッだったの。日本人固有の哀切やらの感性も今や危ういでしょ？ 暮れの「紅白歌合戦」はあまり大したことなかったとのことでしたが、さもありがた！ スイスの女の子たちには私いつも大正・昭和の初め頃の日本の歌を歌ってあげるのだけど。すごーくいいって、モダンだって誉められるわけ。いいものはいいのよ。だからお父さまが浪花節に聞き惚れたり、お母さまが詩吟をうたうのでもいい。何でもやっぱいいものは掴まえて大事にしたいわね。

それから、日本の切手はありがとう。売るのは勿体ないので、大事に取って置きます。お金のことだけど、昨日【ナショナル・ウエストミンスター・バンク】(銀行)で口座を開いたの。安全だからね。それでいつぞや Mrs.J.夫人からいただいてあった18ポンドの小切手がやっとこさ私の口座に入金されることになってやれやれほっとしたところ。一日一日、此の地での生活に馴れ、定着しつつあるのを感じます。人間なんとでもなるものだとか気を強くしたところです。

では又。 千鶴子より

.....



1973年1月22日

お父さま&お母さまへ

この頃、そちらへのおたよりご無沙汰していると思うけど、大丈夫私は生きております。生きておりますけど、毎日毎日郵便屋さんが日本からの便りを運んできてくれるのを待つだけが唯一楽しみといったところで。ちょっと微妙にある種‘宙吊り状態’な心境でおります。

タビストック・クリニックからも返事がそろそろ来てもいい頃だと期待しているのだけど。向こうはなにしろ10月以降のことだから全然急がないようです。私としては万全を期したからと幾ら確信があるにせよ、先方からの返事がない限り4月以降の進退の見極めが付きません。下手に動くこともままならずちょっと焦れているわけなの。

この頃、様々に思考が頭の中で右往左往して定まりません。日本へ戻り人形制作する人になるのもいいかしらなど、とりとめもなく夢想したり…。まるで白い紙にデッサンした跡を消しゴムでチョチョと消して又書き直すみたいに人生ってやり直すことができるのかしら？ 自分を徹底させることに臆病というだけでなく、つい我執とか我欲とかというものに疑念がまとわりつき、今ここ異国での滞在がどうも後ろめたい。それも生来淡泊な日本人的感性かしら？ それでも私の願望は私一個人のためじゃないのだからとか、周囲からの期待をも思い起こし、そう云えば出国の際にはいろんな人からお餞別をもらったしなあ、ここに至ってはもう引くに引けないんだよなあーとか・・・あれやこれやグジャグジャ・・・！

さて、アンナがもうこの生活に耐え切れず、これまで耐えがたきを耐えていたんだけど、もう決心したとかなの。あまりにも疲れているので、一度親元(オーストリア)に帰郷してくるとのこと。

それで目下次の職探しをしているところなのです。実際、私がアンナだったら1週間がもう限度。ここの奥さんの Mrs.V.夫人は何事も自分が支配しないと気が済まない性格だから、自分の思うとおりにしたいし、又思うとおりに出来ると思ひ込んでいるわけだけど。アンナだって、いくら18歳でも、召使いじゃないってプライドがあるの。あの広い邸内でドイツ製の重い掃除機を押したり引いたりしてる姿を見るたびに、私はもう気の毒で見ていられないもの。それだけではなく、彼らの寝室のベッドメイキングやらバスルームの掃除やら、キッチンでの片付けだの食事のお運びやら、もう冗談じゃないという気になるのも無理はない。普通ならば、これぐらいの格式のある屋敷ならば、イギリス仕込みの本職のハウスキーパーを雇って然るべきなのね。可哀想に、語学留学のオペアの女の子を上手に賢く安い賃金で雇って、普通ならそういう召使い(本職のメイド)がやることをたっぶりやらせているわけで、やはり誰しも長続きする筈はない。一つひとつ書いても絶対にそうした巧妙な狡猾ぶりは伝えられないよ。

いろんな滑稽なことが頻出して。特に最近、食べ物がおかしいのが続いたの。それが変だってことが全然彼らには解んないのだから不可解なの。それで私もアンナも、ここの奥さんが作ったものを見ただけで、もう吐き気がして食べれないってことになってしまっていて、特にアンナは感情が高ぶっているの、全然食べ物が喉を通らなくなってる。奥さん、実はバカじゃないから、自分が理不尽だって解るからか、頻りに私たちに愛想笑いしたりする。けど、身に付いた奢り昂ぶりは消えないわけ。いつぞやなんかここイギリスの王室について、<彼らなんかぜんぜ〜ん特別じゃないわよ！>って真顔で言い放ったからもうたまげた。裏返せば自分たちこそ特別だって？この選民意識は何だろ？同化ユダヤ人の心の

亀裂を覗いた気がした。まだ29歳なのよ。ご主人は46歳なの。紳士って振る舞いで絶対我々使用人には愛想いいけど、その賢いこと！ちゃんと計算づくで、奥さんに万事指示をして、がっちりすべてを監督してるように覗かれる。40過ぎてから若い女と結婚する男ってのは、どっか計算高いところあると思わない？彼の狡さが人間の幸せとはまるでピントのずれた結果を招いているように思えてなりません。巻き添え喰ってはならないと、私は私で子育てに専念し、万事調子良くやってますから心配ないです。でも怖いわよね。人間同士、物事が一旦噛み合わなくなると、ほんとに傷付け合わずには済まされなくなるもの。‘いい人ぶりっこ’の化けの皮が剥がれるというか。ここ最近この邸では無惨にも呆れることがいっぱいなの。しばらくアンナを傍らで気遣ってあげるつもり。では又。 千鶴子より

(追伸:お陰様で、FMラジオの音楽で時折心を慰めています。サンキューです！)



1973年2月7日

お父さま&お母さまへ

今日もらったそちらからの便りでは、いろいろこちらの事情を察してもらってる様子でしたが。要するに、今の私は、昔とは全然違うってことなのね。子どものセラピストであったとか、そんなふうには自分を主張できる状況ではないのよ。心理臨床だって、権限のないところでは動けないし、動かないのが鉄則。Mr.&Mrs.V.夫妻に相談されているわけでもないし、変に口挟まないうるって逃げ腰でいる。勿論それで私の気が済むはずもないんだけど・・。

ここの子どもね、確かに2人とも発達が遅れている。どうしてなのかしら？デボウの言葉

は一歳レベル以下だし、それが時折はしっこく気の付く子どもなのよ。だから知能遅滞だってどうしても思えない。それなのにミルクがミルクだってことが4ヶ月近く教えこませようとしてるのにダメなの。私が気合を入れてどうにか梨とかバナナとか言わせるようになったけど、すぐに「アップル(りんご)」になっちゃう。アップルは初めから発音できた唯一ともいえる言葉なの。それもどうしてか不明で。以前のナニーの刷り込みかしら。あまりにも変で、まるで付き合いきれないの。それでいて、自我の主張が強くなり始めて、扱いが難しくなってきたの。食事のときなんて心が虚ろでボーとしていて指舐めばかりで、何度促してもスプーンを口に運ばない。そうしているうちにミルクをぶちまけるやらやらかしてくれる。アンナも庭番のジョージも、デボラは奥さんに似て、まるで‘怠け者’だって言うけど。何か違うの。この頃なんて、自分一人で服を着ようとするし、私に手伝われるのが嫌だとか。とにかく私の模倣に始まって、何でもやり始めたし、きちんとやれるのよ。ところが言葉が話せないから、つい泣きべそかいたり、喚いたりするので、事態の收拾にはどうしても叩いて言うことを聞かせざるを得なくなるやらで、それも彼女の年齢からしてもはや功を奏しないのは判ってるから、もう万事休すってことなの。

デボラの幼稚園での状況について何ら情報が私の耳に伝わってこないのだけど。うまく行ってる筈はない。それが近頃、奥さん同士が車で交代で子どもの送り迎えをし始めたんだけど。デボラは送り届けられて帰宅した折も、ママを捜そうと決してしないの。それで、私に向かってきて抱きつくの。それで安心してるとのよ。ママの不在がちなのには慣れているとしても。ママの姿を眼で追うこともしないというのは奇異だ。ジャッキーもやはり言葉がはっきりしてないの。でも近頃

しよっちゅう口をモグモグ動かして音遊び始めたけど。それにしてもまだ這い這いな。手を繋いでやると歩くけど。すぐにペタンと座り込んでしまうし。デボラは2歳ぐらいまで這い這いしてたって！この事実には衝撃！だから奥さんはジャックリンは育ちが早たって喜んでるわけ。無知というか無邪気というか、もう信じられない！でもとにかく一番おかしいと思うのは、本当にジャッキーはニコニコして機嫌のいい子なので、誰でもつい夢中になって可愛がるの。彼女もそれに馴れてしまって、誰でも側に居れば嬉しい。だけど誰でもいいって感じがするのよ。‘人見知り’をしないってのがむしろ変なもの。

2人ともどこか問題ありとは思っても、何の権限もない私にはもはや手に負えないと焦燥感を募らせていたんだけど。ここに至って一つ大きな救いは、ご主人の実母なるお方が登場したってこと。どうやら戦前ドイツで幼稚園を経営してらしたとかで、つまりは元幼児教育者なわけよ！それで或る日お越しになって。チラッとお姿を見掛けただけでしたが、それがまあ堂々とした威厳ある風格のご婦人で、デボラにドイツ訛りながらも、あれやこれや英語で話しかけておいでだったのだけど。遂に孫娘の深刻な事態を把握したという次第で。私は埒外の人で勿論何ら意見を求められることもなかったけど。それでおそらくは彼女の‘鶴の一声’でようやくデボラの言語治療が開始されることになったようなの。今後定期的にスピーチセラピストがお邸に出張して通ってくることになりました。もう後は任せた！ってわけだから、この展開には心底安堵しました。

この前、愉快なことがあったの。V.家の友人宅の2歳になったばかりの可愛い女の子が遊びに来たんだけど。まだ歩きはヨタヨタしてたけど、ペチャペチャよくしゃべるの。本当に

驚いた！＜それは私のよ＞、＜私の番よ＞とか、
＜もう食べたくない＞、それに＜有難う＞とかも
チャンと言うの！そんなのが当たり前で驚くことで
も何でもないのに、でも改めていかに言葉を持
たないデボラが茫としたとりとめもない存在なの
かと不憫に思われ、ほんと気が滅入ったの。言
葉が無いということは道標(みちしるべ)がないこと、
起点も終点もない、まさに袋小路だ！この行き
詰まり感が今やこの邸のどこかしこにも蔓延して
るみたい。子どもたちやらアンナに限らず、私だっ
て例外ではないわけで。気鬱にもやけっぱちにも
ならない方がどうかしてる。ここの生活もいろいろ
学ぶことはあったけど、ほんと疲れました。やは
り責任を持たせられていないところでは全力投
球もできませんし、何の進歩も発展も期待でき
ないと判ったから。もう一歩まともな職に就くこ
とを決心しました。やっと馴れた頃に又別れるこ
とになるんだから、ジャッキーはとにかく、ほんとデボ
ラが可哀想なんだけど・・。

実はね、次の就職口を巡って、交渉
をし始めたところです。うまく行くと思う。いずれ詳
細をお知らせできるでしょう。毎日、時が流れる
のを待っている状態です。今日美容院でパーマ
を掛けましたよ。ではバイ！ 千鶴子より
.....



1973年2月15日

お父さま&お母さまへ

写真と手紙をありがとう。全然皆変わ
らないじゃない！なにかとてもふくよかで苦労が
ないって感じで、まことに結構至極です！

さて、一方こちらの事態はいよいよ最
高潮を迎えてます。今日アンナは奥さんに2週
間前のお暇の通告したばかり。やっとほっとして
荷物を出し始めてる。まずは一時帰郷するとや
らだからか、顔もホコホコでまったく嬉しそうです。

私の方とは云えば、実は以前から此
地での子どもの養護施設というものに関心があ
ったのではあったの。それがふと友だちになったス
イスの女の子から、つい最近来た新参のオラン
ダの女の子がどうやらそっちを目指して就職活
動してるらしい、それで或る当局の責任ある立
場の誰かと面会するらしいとの情報を貰って、そ
ういうわけで、私もそのツテで思いがけなくもMr.
シンクレアというソーシャル・ワーカーに会う手筈と
になったのです。これは思いがけない展開とい
うか、むしろ思い通りの進展ということになる！

さてそれで、昨日の話なのだけど。『社
会福祉事務所』を訪れ、Mr.シンクレア始めいろ
んな方々にお会いしました。皆とても親切でした
よ。福祉に携わる仕事をしている人たちの雰囲気
ってのは日本とまるで同じ！明るくて快活で
善意に溢れている職場、それは私がかつて馴れ
親しんでいたものだということを思い出しました。
アット・ホームっていうか、まるで自分の‘古巣’へ
戻ってきたみたいで気持ちが和らいで、私は
久々に嬉しかったの。

やはりいい人たちと暮らさなければダメ
なんだとしみじみ思ったの。何がダメかといえば、
‘私’が潰される、つまり私の中の‘主体’が疲
弊してゆくってことだけど。V.家で馬鹿げた‘仮
面劇’に付き合わさせられてるうちに、徐々に自
分が無思考になってゆくようで怖いわけ。この際、
彼らのスノッブ(上流きどり)の片棒を担ぐのを断
固止めればいいわけよ。それで一抜けた！万
歳！って感じなの。

社会福祉事務所は養護施設のスタ
ッフになる人材の確保の難しさを抱えているらし
く、私の雇用についてはほんとと話が運んでゆ
きました。まずは私の此の国での‘労働許可
証’を取得することから始めなくてはなりませんが、

その申請の手続きもなにもかもあちらに一任することになったのです。労働許可証の認可には軽く一ヶ月は掛かるとか。此国の行政はまるでやることがスローなのだけど、こちらの勝手な都合ばかり言えるわけもなく、後は信頼してお任せするしかない。よくもまあ、次々にいろんなことが叶えられてゆく！快進撃よね！ちょっともたついてはいるけどさ。実に面白いものだと思うの。

それで、取り敢えず私はここV家を去る決心が付いたわけです。アンナは欧州行きの列車が金曜日に出るので木曜日にここを去ります。私は土曜日(3月3日)にお暇する予定なの。英語の個人レッスンはそろそろ止めるつもりでいましたし。しばらく Hostel 暮らしするぐらいの金銭の蓄えもありますから大丈夫なのです。未来の夢の実現というより、取り敢えず目の前の次のステップへ向けて体勢の立て直しを図ります。

タヴィストック・クリニックの件では依然として連絡待ちです。そろそろ今月中にはどうなっているのかこちらから尋ねてみます。ここでの将来の可能性をじっくり見極めたいの。研修の機会を承諾されることを見込んでの就職活動なわけですから。それで、帰りの航空券の有効期限の6月の初旬迄には、此地での自分自身の将来の目星も付くものと期待してるところです。

専門性を身に付けること、精神分析への一途な傾倒はいいとして、それが為到此国に長期滞在を余儀なくされるということで私の人格に及ぼす影響をちょっと危惧してるの。V家のお宅はちょっと特別だけど、一般的に云っても、英国人の食べ物に関する‘感情欠如’は相当なものだ。本来愉しみでもある筈の食べることがなんで規律と絡み合い、食べさせられねばならないのか？！猛烈に釈然としない。そこからくるのやら、どうも感情表現が全般的に抑制的。

無理に呑み込むか吐き出すかのいずれかで、不躰にならないためには心の内は一切覆い隠すように行儀よく仕込まれているみたい！だからか人の気持ちの忖度は概して苦手と云えそう。

つい先頃 Dr. カーベルに職を変えることを書いてやったら、返信がく Hostel に落ち着いたら、ぜひ住所を知らせて下さい。観劇にご一緒しましょう>って！身元保証人になってもらったりどれほどか恩義のある方ではあるけど。私が期待したことは、決して観劇に誘ってもらったりといったことではないのになって違和感を覚えた。彼女には私の雇われの身の苦勞なぞ解らないらしい。女医の立場ではさもありなん！それはそれで此国での付き合いの流儀なのだからとわきまえて、これからも親しくお付き合いいただくでしょうけれど。スイスの女の子たちにしろ、友だちといっても、どこか期待してはならないって、甘えは勿論思い遣りすらも、そんなふうに寂しくも感じないで生きてゆくのがこの生き方なの。ロンドンというところは心が殺風景になるところです！

ところで Hostel 探しを早速に試みた次第だけど。土地勘が付いてきたもので、ガイドブックを頼りにロンドン市内をあちこち歩いてみたの。面白かったし怖かったし、実にさまざま！ふと感じがいいって思うところがあったので尋ねたら、市役所の管轄で女子のための Hostel ですって。1週間朝夕食事付きで、費用は7ポンド70ペニー。個室はなく、誰かとルームシェアになるけど。そこに居た女の子たちの雰囲気もいいし、受付のおばさんもいい感じだった。もう喜んじゃって市役所で登録を済ませてきたの。ケンジントン・ガーデンズのすぐ近くで夢のようにラッキーなのよ！3月3日(お雛祭り！)に自由の身を祝おうと思ってます。

ではいずれ又近々に。千鶴子より

.....